

營業收益稅

## ◎營業收益稅

### ○營業收益稅法(大正十五年三月二十七日法律第十一號)

第一條 本法施行地ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル營利法人ニハ本法ニ依リ營業收益稅ヲ課ス

第二條 本法施行地ニ營業場ヲ有シ左ニ掲クル營業ヲ爲ス個人ニハ本法ニ依リ營業收益稅ヲ課ス

- 一 物品販賣業(動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ販賣ヲ含ム)
- 二 銀行業
- 三 無盡業
- 四 金錢貸付業
- 五 物品貸付業(動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ含ム)
- 六 製造業(瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム)
- 七 運送業(運送取扱ヲ含ム)
- 八 倉庫業
- 九 請負業
- 十 印刷業

營業收益稅 營業收益稅法

- 十一 出版業
  - 十二 寫真業
  - 十三 席貸業
  - 十四 旅人宿業(下宿ヲ含ミ木賃宿ヲ含マズ)
  - 十五 料理店業
  - 十六 周旋業
  - 十七 代理業
  - 十八 仲立業
  - 十九 問屋業
- 第三條 營業收益稅ハ營業ノ純益ニ付之ヲ賦課ス
- 第四條 法人ノ純益ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル  
 ・法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散  
 一又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス
- 第五條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ純  
 益ニ付營業收益稅ヲ納ムル義務アルモノトス
- 第六條 個人ノ純益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ前年一月一  
 日ヨリ引續キ爲シタルニ非サル營業ニ付テハ其ノ年ノ豫算ニ依リ計算ス

- 相續シタル營業ニ付テハ相續人カ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ純益ヲ計算ス  
 資本利子稅ヲ課セラルヘキ資本利子ハ之ヲ純益ニ算入セス
- 第七條 左ニ掲クル營業ノ純益ニハ營業收益稅ヲ課セス
- 一 政府ノ發行スル印紙切手類ノ賣捌
  - 二 度量衡ノ製作、修覆又ハ販賣
  - 三 自己ノ採掘シ又ハ採取シタル礦物ノ販賣
  - 四 新聞紙法ニ依ル出版
  - 五 本法施行地外ニ在ル營業場ニ於テ爲ス營業
  - 六 法人ノ漁業又ハ演劇興行
  - 七 個人ノ自己ノ收穫シタル農産物、林産物、畜産物若ハ水産物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造  
 但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ヲ除ク
- 第八條 勅令ヲ以テ指定スル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ  
 翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生スル純益ニ付營業收益稅ヲ免除ス
- 第九條 個人ノ純益金額四百圓ニ滿タサルトキハ營業收益稅ヲ課セス
- 第十條 營業收益稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス
- 法人 百分ノ三・六
  - 個人 百分ノ二・八

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル地租額又ハ資本利子稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

個人カ其ノ營業用ノ土地ニ付納付シタル地租額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

前二項ノ場合ニ於テ控除スヘキ地租又ハ資本利子稅ハ純益計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入セス

第十一條 納稅義務アル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第十二條 納稅義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第十三條 法人ノ純益金額ハ第十一條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ個人ノ純益金額ハ所得稅法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後個人ノ純益金額ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後個人ノ營業ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ純益金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定ス

第十四條 稅務署長ハ毎年個人ノ營業ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ純益金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 所得稅法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ純益金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス

第十六條 第十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十七條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル純益金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第十八條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者純益金額二分ノ一以上減損アルトキハ政府ニ純益金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

純益金額決定後營業繼續ニ因リ純益金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第二十條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ純益金額ヲ査覈シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第二十一條 納稅義務者第十八條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 法人ノ營業收益稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

個人ノ營業收益稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第二十三條 第十九條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第二十四條 個人ノ營業收益稅ハ納稅義務者ノ住所地、住所ナキトキハ主タル營業場ノ所在地ヲ以テ納稅地トス但シ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル者ニ在リテハ所得稅ノ納稅地ヲ以テ營業收益稅ノ納稅地トス

第二十五條 收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢查シ又ハ營業者ニ質問スルコトヲ得

第二十六條 政府ハ同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ對シ營業收益稅ニ關スル事項ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ調書ヲ提出スヘシ

第二十七條 所得稅法第七十三條ノ二ノ規定ハ純益金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 第二十五條ノ規定ニ依ル帳簿物件ノ檢查ヲ妨ケ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ提示

シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ營業收益稅ヲ遁脱シタル者ハ其ノ遁脱シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ個人ノ營業ニ付營業收益稅ヲ遁脱シタル者ノ純益金額ハ第十三條第二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス

第三十條 營業收益稅ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ此限ニ在ラス

附則

本法ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ大正十六年一月一日以後ニ終了スル事業年度ノ期間カ大正十五年ニ跨ルモノニ付テハ當該事業年度ノ純益金額ヨリ日割計算ノ方法ニ依リテ算出シタル大正十五年ニ屬スル期間ノ純益ヲ控除ス

○營業收益稅法施行規則(大正十五年九月九日勅令第三百三號)

第一條 法人ノ純益ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ付其ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シテ之ヲ計算ス

法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ損金ハ其ノ事業年度ノ純益計算上益金又ハ損金ニ之ヲ算入セス

**第二條** 營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ地租額又ハ資本利子稅額ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ノ用ニ供スル土地又ハ資本ノ利子ニ付納付シタルモノニ限ル但シ貸付ケタル土地ニ對スル地租額ノ控除ハ其ノ土地ニ付生シタル純益ノ總額ニ百分ノ三・六ヲ乘シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ト其ノ他ノ營業トニ共通シテ使用スル土地又ハ資本ノ利子アルトキハ其ノ地租總額又ハ資本利子稅總額ヲ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ屬スル收入金額ト其ノ他ノ營業ニ屬スル收入金額トニ案分シテ控除額ヲ計算ス但シ收入金額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ資産價額又ハ純益ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算スルコトヲ得

**第三條** 營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ資本利子稅額中公債、社債又ハ產業債券ニ對スルモノハ其ノ公債、社債又ハ產業債券ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル

前項ノ公債、社債又ハ產業債券ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スル資本利子稅額ハ其ノ納付シタル資本利子稅額ヲ其ノ公債、社債又ハ產業債券ヲ所有シタル期間ノ利子額ト所有セザリシ期間ノ利子額トニ案分シテ之ヲ計算ス

**第四條** 營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ地租額又ハ資本利子稅額ノ控除

ヲ受ケムトスル者ハ營業收益稅法第十一條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ  
前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ土地ノ地目別又ハ資本利子ノ種類別ニ其ノ地價又ハ利子、納付シタル稅額及控除ヲ受ケヘキ稅額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

**第五條** 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申請ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

**第六條** 個人ノ純益ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ付其ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シテ之ヲ計算ス

**第七條** 營業收益稅法第六條第一項ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

**第八條** 營業收益稅法第十條第三項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ地租額ハ其ノ營業用ノ土地ニシテ家事ニ關聯セサルモノニ付納付シタルモノニ限ル

前項ノ地租額ハ前年中ニ納付シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス但シ營業收益稅法第六條第一項但書ノ場合ニ於テハ其ノ年ノ豫算ニ依ル

**第二條第二項ノ規定**ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ト其ノ他ノ營業トニ共通シテ使用スル土地ニ對スル地租額ノ控除ニ付之ヲ準用ス

**第九條** 營業收益稅法第十條第三項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ地租額ノ控除ヲ受ケムトスル者

ハ營業收益稅法第十二條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ納稅義務アルニ至リタルトキハ純益金額ノ決定前其ノ純益ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ土地ノ番號、地目、地價及地租額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

第十條 左ニ掲クル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ營業收益稅法第八條ノ規定ニ依リ營業收益稅ヲ免除ス

- 一 金、銀、鉛、亞鉛、鐵又ハアルミニウムノ地金
  - 二 鐵ノ條、竿、テーパー形アングル形類、軌條、板、線及管(鑄製管ヲ除ク)
  - 三 鋼ノ合金ノ條、竿、板及管
  - 四 汽罐、原動機(機關車ヲ含ム)及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
  - 五 燐、曹達灰、苛性曹達、硫酸アムモニウム、石炭酸、クロール酸加里及グリセリン
  - 六 製紙用バルブ
  - 七 板硝子
  - 八 コンデンスドミルク
  - 九 絹、亞麻又ハ毛ノ織物
- 前項第九號ノ物產ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅餘尺一尺八寸以上及長餘尺三十尺以上ノ織物ノミヲ製造スル者ニ限ル

第十一條 前條ノ製造業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムヘキ事實アル者ハ其ノ製造業ニ付營業收益稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限リ其ノ免除期間ヲ繼承ス

第十二條 營業收益稅法第八條ノ規定ニ依リ營業收益稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ同法第十一條又ハ第十二條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ個人ノ營業ニ付納稅義務アルニ至リタルトキハ純益金額ノ決定前其ノ純益ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ第十條ノ製造業ヨリ生スル純益ト其ノ他ノ純益トヲ有スルトキハ第十條ノ製造業ヨリ生スル純益ト其ノ他ノ純益トヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第十三條 法人ノ純益金額ハ毎事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算着手ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ但シ所得稅法ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十四條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者ハ營業ノ種類、營業場所在地、純益金額及純益算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十五條 稅務署長ハ所轄內ニ事務所ヲ有スル同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ對シ其ノ團體ニ屬スル各營業者ノ純益金額ノ見込額又ハ順位ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ諮問事項ニ對スル調査ヲ作成シ稅務署長ノ指定スル期限迄ニ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

- 第十六條 稅務署長營業收益稅法第十三條、第十五條又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依リ純益金額  
一ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ
- 第十七條 營業收益稅法第十七條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サズトスル者ハ事由ヲ具シ證書類ヲ添  
ヘ純益金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ
- 第十八條 所得稅法施行規則第五十六條ノ規定ハ純益金額ノ決議ニ付之ヲ準用ス
- 第十九條 稅務監督局長營業收益稅法第十八條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅  
義務者ニ通知スヘシ
- 第二十條 營業收益稅法第十九條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手續ニ違背シタルモ  
ノナルトキ又ハ稅務署長ニ於テ純益金額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘ  
シ
- 第二十一條 稅務署長營業收益稅法第二十條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義  
務者ニ通知スヘシ
- 第二十二條 納稅義務者納稅地ノ稅務署所轄外ニ營業場ヲ有スルトキハ其ノ營業場所在地ノ稅務署  
ニ納稅地ヲ申告スヘシ
- 第二十三條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ
- 第二十四條 收稅官吏營業收益稅法第二十五條ノ規定ニ依リ營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査スルトキ  
ハ検査章ヲ携帯スヘシ

附則

本令ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 法人ノ大正十六年一月一日以後ニ終了スル事業年度ノ期間カ大正十五年ニ跨ルモノニ付テハ當該事  
 業年度ノ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ地租額又ハ資本利子稅額ハ當該事業年度ノ總日數ニ對スル大  
 正十六年ニ屬スル日數ノ割合ヲ其ノ納付シタル地租額又ハ資本利子稅額ニ乘シ之ヲ計算ス

○營業收益稅法施行規則第二十四條ノ規定ニ依  
 リ收稅官吏ノ携帯スヘキ検査章書式ノ件(大正十五年九月九日大藏省令第三十  
 五號)

營業收益稅法施行規則第二十四條ノ規定ニ依リ收稅官吏ノ携帯スヘキ検査章書式左ノ通定ム

書式(用紙厚質白紙縱二寸五分  
 横一寸五分)

<p>第何號</p> <p>表 檢 査 章</p> <p style="text-align: center;">稅 務 署 印</p>	<p>何稅務署</p> <p>官 氏 名</p>
--	--------------------------

營業收益稅 營業收益稅法施行規則第二十四條ノ規定ニ依リ收稅官吏ノ携  
 帶スヘキ検査章書式ノ件 一七七



營業收益稅 貯蓄銀行法 礦業法 保險業法 右ノ外所得稅ノ部ニ掲出セ  
ル營業收益稅免除ニ關スル法令

○貯蓄銀行法(抄録) (大正十年四月十四日法律第七十四號)

第二十二條 貯蓄銀行業ヲ營ム者ニハ其ノ納付スヘキ營業收益稅額ノ二分ノ一ヲ免除ス

○礦業法(抄録) (明治三十八年三月八日法律第四十五號)

第八十二條 礦業權者ニハ其ノ礦業ニ付營業稅及營業收益稅ヲ課セス

○保險業法(抄録) (明治三十三年三月二十二日法律六十九號)

第九十一條 相互會社ニハ營業收益稅ヲ課セス

○右ノ外所得稅ノ部ニ掲出セル營業收益稅免除  
ニ關スル法令左ノ通

- 一 産業組合法
- 一 産業組合中央金庫法
- 一 住宅組合法
- 一 輸出組合法
- 一 重要輸出品工業組合法
- 一 漁業法
- 一 農業倉庫業法
- 一 製鐵業獎勵法
- 一 海外移住組合法

資本利子税

## ◎資本利子税

### ○資本利子税法(大正十五年三月二十七日法律第十二號)

- 第一條** 本法施行地ニ於テ資本利子ノ支拂ヲ受クル者ニハ本法ニ依リ資本利子税ヲ課ス
- 第二條** 資本利子税ハ本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル左ノ資本利子ニ付之ヲ賦課ス  
甲種 公債、社債、産業債券若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益  
乙種 第三種ノ所得ニ付納稅義務ヲ有スル者ノ第三種ノ所得中營業ニ非サル貸金又ハ預金ノ利子  
本法ニ於テ貸付信託ト稱スルハ所得稅法第三條ノ三ニ規定スル貸付信託ヲ謂フ
- 第三條** 甲種ノ資本利子ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル
- 第四條** 乙種ノ資本利子ハ前年中ノ收入金額ニ依ル  
被相續人ノ收入金額ハ之ヲ相續人ノ收入金額ト看做ス
- 第五條** 甲種ノ資本利子ニシテ左ニ掲クルモノハ資本利子税ヲ課セス  
一 所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレサル者ノ支拂ヲ受クル利子  
二 貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子
- 第六條** 資本利子税ノ稅率ハ資本利子金額百分ノ二トス  
信託會社方其ノ引受ケタル貸付信託ノ信託財產ニ付納付シタル資本利子稅額ハ命令ノ定ムル所ニ

依り當該貸付信託ノ利益ニ對スル資本利子税額ヨリ之ヲ控除ス  
前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ資本利子税ハ其人貸付信託ノ利益ニ之ヲ加算ス

第七條 乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ其ノ資本利子金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第八條 乙種ノ資本利子金額ハ所得稅法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス  
所得調査委員會閉會後乙種ノ資本利子ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ資本利子金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ資本利子金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ資本利子金額ヲ決定ス

第九條 稅務署長ハ毎年乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ資本利子金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 所得稅法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ資本利子金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス

第十一條 第八條又ハ前條ノ規定ニ依リ乙種ノ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十二條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル資本利子金額ニ對シテ異議アルトキハ通

知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第十三條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 納稅義務者前條ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十五條 甲種ノ資本利子ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ資本利子税ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

乙種ノ資本利子ニ付テハ資本利子税ノ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第十六條 前條第一項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ資本利子税ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第十七條 乙種ノ資本利子ニ付テハ第三種ノ所得ニ對スル所得稅ノ納稅地ヲ以テ資本利子税ノ納稅地トス

第十八條 收稅官吏ハ調査上必要アルトキハ資本利子ノ支拂ヲ受ケ又ハ其ノ支拂ヲ爲スト認ムル者ニ質問スルコトヲ得

第十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ資本利子税ヲ逃脱シタル者ハ其ノ逃脱シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス  
前項ノ場合ニ於テ乙種ノ資本利子ニ付資本利子税ヲ逃脱シタル者ノ資本利子金額ハ第八條第二項ノ規定ニ拘テス政府ニ於テ之ヲ決定シ應ニ其ノ税金ヲ徵收ス

第二十條 資本利子ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル隱匿ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ資本利子税ノ附加税ヲ課スルコトヲ得ス

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

乙種ノ資本利子ニ付テハ大正十五年分資本利子税ヨリ本法ヲ適用ス但シ大正十五年ニ限り第七條中三月十五日トアルハ四月三十日、第十五條中其ノ年八月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年九月一日ヨリ三十日限、第十條ノ規定ニ依ル期日五月三十一日トアルハ八月三十日トス

○資本利子税法施行規則(大正十五年三月三十一日勅令第三十一號)

第一條 資本利子税法第六條第二項ノ規定ニ依リ貸付信託ノ利益ニ對スル資本利子税額ヨリ控除ス

ヘキ資本利子税額ハ信託會社ニ於テ貸付信託ノ利益ニ對スル資本利子税徵收ノ際之ヲ控除スヘシ

第二條 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル信託會社ニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第三條 乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アル者ハ資本利子ノ金額及算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

前項ノ申告ハ所得税法ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スヘシ

第四條 稅務署長資本利子税法第八條、第十條又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第五條 資本利子税法第十二條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ資本利子金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ

第六條 稅務監督局長資本利子税法第十三條ノ規定ニ依リ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第七條 資本利子税法第五條第一號ノ規定ニ依リ資本利子税ヲ課セラレサル者無記名ノ公債、社債又ハ產業債券ヲ取得シ、讓渡シ又ハ喪失シタルトキハ其ノ名稱、額面金額、記號及番號ヲ利子支

資本利子税 資本利子税法施行規則

一八三

資本利子税 資本利子税法施行細則

二八四

拂ノ取扱所ニ通知スヘシ但シ所得税法施行規則第六十四條ノ規定ニ依リ通知ヲ爲シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第八條 甲種ノ資本利子ニ付其ノ金額ノ支拂者資本利子税ヲ徴收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムヘシ

附則

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○資本利子税法施行細則(大正十五年四月一日大藏省令第十六號)

第一條 資本利子税法施行規則第八條ノ規定ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ、計算書ハ第三號書式ニ依リ調製スヘシ

第二條 日本銀行ニ於テ甲種ノ資本利子ニ付資本利子税ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添付シ之ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ

第三條 甲種ノ資本利子ニ付資本利子税ノ過誤納アリタル爲之カ拂戻ヲ請求セムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子ノ支拂地ノ所轄稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提出スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式(用紙適宜輪廓縦四寸五分横三寸三分)

資本利子税拂込書

第何號		何年度		大藏省主管	
租税	資本利子	資本利子	資本利子	何稅務署	
<p>頭書ノ金額拂込候也</p> <p>何縣何市長</p> <p>何某 印</p> <p>(其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス)</p> <p>日本銀行何店宛</p> <p>大正何年何月何日</p>					

一 本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スヘシ

資本利子税 資本利子税法施行細則

二八五

資本利子税 資本利子税法施行細則

備考  
一 日本銀行へ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得

領收證書

第何號	何年度	資本利子税
何縣何市長		
何某納		
(其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス)		
Y		
大正何年何月何日領收		
日本銀行何店團		

通知書

第何號	何年度	大藏省主管
租稅	資本利子	何稅務署
何縣何市長		
何某納		
(其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス)		
Y		
大正何年何月何日領收		
日本銀行何店團		
何稅務署長官氏名殿		

第二號書式(用紙適宜輪廓横四寸五分二枚接續)

資本利子税 資本利子税法施行細則

大正何年何月分  
資本利子税徴収高計算書

貸付信託以外ノ分

區分	支拂ヘキ金額	支拂金額		支拂未済金額	税額	摘要
		課税	非課税			
何公債利子						
何社債利子						
何産業債券利子						
銀行預金	定期預金					
	特別當座預金					
	通知預金					
	當座預金					
	.....計					
合計						

大正何年何月何日

何縣、市町村又ハ何會社

備考

一 支拂フヘキ金額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ支拂フヘキコトノ確定シタル金額ト前月分支拂未済金額トノ合計ヲ掲クルモノトス但シ銀行預金利子ニ付テハ現實支拂ヲ爲シタル金額ノミニヨリ調理スルモ妨ナシ  
二 非課税ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添付スルモノトス  
三 第二種所得税徴収高計算書ノ税額欄ノ次ニ資本利子税額ノ一欄ヲ設ケテ併用シ本計算書ヲ省略スルコトヲ得

備考

一 支拂フヘキ金額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ支拂フヘキコトノ確定シタル金額ト前月分支拂未済金額トノ合計ヲ掲グルモノトス但シ現實支拂ヲ爲シタル金額ノミニヨリ調理スルモ妨ナシ  
二 非課税ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添付スルモノトス  
三 第二種所得税徴収高計算書ノ税額欄ノ次ニ資本利子税額ノ一欄ヲ設ケテ併用シ本計算書ヲ省略スルコトヲ得

大正何年何月分  
資本利子税徴収高計算書  
貸付信託ノ分

支拂ヘキ金額	支拂金額		支拂未済金額	税額		額差引	摘要
	課税	非課税		當初税額	内除シタル資本利子税額		

第三號書式乙(用紙縦五寸五分)

大正何年何月何日  
何々信託會社



相  
續  
稅

## ◎相続税

### ○相続税法

(明治三十八年一月一日法律第十號)

- 一 改正 明治四十三年三月二十五日法律第四號
- 大正 三 年三月三十一日法律第二十二號
- 大正 十 一年四月十八日法律第四十八號
- 大正 十 五年三月二十七日法律第十三號

**第一條** 相続開始シタルトキハ開始地カ帝國内ニ在ルト否トヲ問ハス又被相続人若ハ相続人カ帝國臣民タルト否トヲ問ハス本法施行地ニ在ル相続財産ニハ本法ニ依リ相続税ヲ課ス

**第二條** 被相続人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ左ニ掲クル財産ヲ以テ本法施行地ニ在ル相続財産トス

- 一 本法施行地ニ在ル動産及不動産
  - 二 本法施行地ニ在ル不動産ノ上ニ存スル權利
  - 三 前二號ニ掲ケタルモノ以外ノ財産權
- 被相続人カ本法施行地ニ住所ヲ有セザルトキハ前項第一號及第二號ノ財産ヲ以テ本法施行地ニ在ル相続財産トス

船舶ノ所在ハ船舶ノ所在ニ依ル

相続開始前一年内ニ本法施行地内ヨリ本法施行地外ニ轉シタルモノノ住所又ハ船舶ハ本法施行地内ニ在ルモノト看做ス

第三條 被相続人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ相続開始ノ際本法施行地ニ在ル相続財産ノ價額ニ相続開始前一年内ニ被相続人カ本法施行地ニ在ル財産ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課税價格トス

一 公課

二 被相続人ノ葬式費用

三 債務

被相続人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ相続開始ノ際本法施行地ニ在ル相続財産ノ價額ニ相続開始前一年内ニ被相続人カ本法施行地ニ在ル財産ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課税價格トス

一 其ノ財産ニ係ル公課

二 其ノ財産ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務

三 其ノ財産ニ關スル贈與ノ義務

永代借地權ハ相続税ノ課税價格ニ算入セス

公共團體又ハ慈善其ノ他ノ公益事業ニ對シ爲シタル贈與及遺贈ハ課税價格ニ算入セス(明治四十三年法律第四號改正)

第三條ノ二 (大正十五年法律第十三號附則)

第四條 相続財産ノ價格ハ相続開始ノ時ノ價格ニ依ル

地上權、永小作權及定期金ニ付テハ政府ハ左ノ方法ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス(大正十五年法律第十三號附則)

一 地上權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額トス  
殘存期間十年以下ナルモノ 地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 二倍  
殘存期間三十年以下ナルモノ 地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 三倍  
殘存期間五十年以下ナルモノ又ハ存続期間ノ定ナキモノ 地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 五倍

二 永小作權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額トス  
殘存期間百年以下ナルモノ 地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 七倍  
殘存期間百年ヨリ長キモノ 地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 十二倍

三 永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格  
殘存期間十年以下ナルモノ 永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 二倍  
殘存期間三十年以下ナルモノ又ハ存続期間ノ定ナキモノ 永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 三倍

四 永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格  
殘存期間五十年以下ナルモノ 永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 五倍

五 定期金ハ其ノ殘存期間ニ於ケル總金額ヲ以テ其ノ價額トス但シ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

四 無期定期金ハ其ノ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ以テ其ノ價額トス

五 終身定期金ハ目的トセラレタル人ノ年齢ニ依リ左ノ期間ニ於ケル定期金ノ總額ヲ以テ其ノ價額トス

一 二十歳未満ノ者 十年

二 三十歳未満ノ者 八年

三 四十歳未満ノ者 六年

四 五十歳未満ノ者 四年

五 六十歳未満ノ者 二年

六 六十歳以上ノ者 一年

前項ニ於テ土地ノ賃貸價格ト稱スルハ貸主カ公課、修繕費、保険料其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃貸スル場合ニ於テ貸主ノ取得スヘキ金額ヲ謂フ

第五條 條件附權利、存続期間ノ不確定ナル權利、信託ノ利益ヲ受クヘキ權利又ハ訴訟中ノ權利ニ付テハ政府ノ認ムル所ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス

第三條ニ依リ控除スベキ債務金額ハ政府カ確實ト認メタルモノニ限ル

第六條 課稅價格カ家督相続ニ在リテハ五千圓、遺産相続ニ在リテハ千圓ニ滿タサルトキハ相続稅ヲ課セス

第七條 軍人、軍屬ノ戦死又ハ戦争ノ爲受ケタル傷疾疾病ニ起因シタル死亡ニ因リ相続開始シタルトキハ相続稅ヲ課セス但シ傷疾者又ハ疾病者ニシテ負傷又ハ發病後一年ヲ經過シ死亡シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 相続稅ハ課稅價格ヲ左ノ各級ニ区分シ其ノ各区分ニ對シ相続人ノ種類ニ從ヒ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ課ス

家督	相続	稅率
五千萬圓以下ノ金額	相続人カ被相続人ノ家族タル直系卑屬ナルトキ	千分ノ八
五千萬圓ヲ超スル金額	相続人カ被相続人ノ指定シタル者、民法第九百八十二條ニ依リ選定セラレタル者、被相続人ノ家族タル直系卑屬又ハ入ナルトキ	千分ノ十
一萬圓ヲ超スル金額	相続人カ被相続人ノ指定シタル者、民法第九百八十二條ニ依リ選定セラレタル者、被相続人ノ家族タル直系卑屬又ハ入ナルトキ	千分ノ十五
二萬圓ヲ超スル金額	相続人カ被相続人ノ指定シタル者、民法第九百八十二條ニ依リ選定セラレタル者、被相続人ノ家族タル直系卑屬又ハ入ナルトキ	千分ノ二十
三萬圓ヲ超スル金額	相続人カ被相続人ノ指定シタル者、民法第九百八十二條ニ依リ選定セラレタル者、被相続人ノ家族タル直系卑屬又ハ入ナルトキ	千分ノ二十五
四萬圓ヲ超スル金額	相続人カ被相続人ノ指定シタル者、民法第九百八十二條ニ依リ選定セラレタル者、被相続人ノ家族タル直系卑屬又ハ入ナルトキ	千分ノ三十
五萬圓ヲ超スル金額	相続人カ被相続人ノ指定シタル者、民法第九百八十二條ニ依リ選定セラレタル者、被相続人ノ家族タル直系卑屬又ハ入ナルトキ	千分ノ四十

七萬圓ヲ超スル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十三	千分ノ五十
十萬圓ヲ超スル金額	千分ノ三十	千分ノ四十	千分ノ六十
十五萬圓ヲ超スル金額	千分ノ四十	千分ノ五十	千分ノ七十
二十萬圓ヲ超スル金額	千分ノ五十	千分ノ六十	千分ノ八十
三十萬圓ヲ超スル金額	千分ノ六十	千分ノ七十	千分ノ九十
四十萬圓ヲ超スル金額	千分ノ七十	千分ノ八十	千分ノ百
五十萬圓ヲ超スル金額	千分ノ八十	千分ノ九十	千分ノ百
七十萬圓ヲ超スル金額	千分ノ九十	千分ノ百	千分ノ百
百萬圓ヲ超スル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
二百萬圓ヲ超スル金額	千分ノ百十	千分ノ百二十	千分ノ百四十
三百萬圓ヲ超スル金額	千分ノ百二十	千分ノ百三十	千分ノ百五十
五百萬圓ヲ超スル金額	千分ノ百三十	千分ノ百四十	千分ノ百六十

遺産 相続

課税 価格	千圓以下ノ金額	千分ノ十	千分ノ十二	千分ノ十七
課税 価格	千圓ヲ超スル金額	千分ノ十二	千分ノ十四	千分ノ二十

相続人カ直系ノ者ナルトキ  
 相続人カ配偶者又ハ  
 直系尊屬ナルトキ  
 相続人カ其ノ他  
 ノ者ナルトキ

五千圓ヲ超スル金額	千分ノ十四	千分ノ十七	千分ノ二十五
一萬圓ヲ超スル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十
二萬圓ヲ超スル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ三十五
三萬圓ヲ超スル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十五	千分ノ四十五
四萬圓ヲ超スル金額	千分ノ三十五	千分ノ四十五	千分ノ五十五
五萬圓ヲ超スル金額	千分ノ四十五	千分ノ五十五	千分ノ六十五
七萬圓ヲ超スル金額	千分ノ五十五	千分ノ六十五	千分ノ七十五
十萬圓ヲ超スル金額	千分ノ六十五	千分ノ七十五	千分ノ八十五
十五萬圓ヲ超スル金額	千分ノ七十五	千分ノ八十五	千分ノ九十五
二十萬圓ヲ超スル金額	千分ノ八十五	千分ノ九十五	千分ノ百
三十萬圓ヲ超スル金額	千分ノ九十五	千分ノ百	千分ノ百
四十萬圓ヲ超スル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
五十萬圓ヲ超スル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
七十萬圓ヲ超スル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
百萬圓ヲ超スル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
二百萬圓ヲ超スル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
三百萬圓ヲ超スル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
五百萬圓ヲ超スル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百

外國ノ法律ニ依リ開始シタル相続ニ關シテハ遺産相続ニ關スル稅率ヲ準用ス但シ相続人二人以上アル場合ニ於テ其ノ適用スヘキ稅率相異ルトキハ最低キ稅率ヲ適用ス

第九條 相続人ノ廢除若ハ其ノ取消ニ關スル裁判ノ確定前又ハ相続ノ承認若ハ拋棄前ト雖政府ハ必要ニ依リ其ノ推定家督相続人又ハ推定遺産相続人ニ對スル稅率ヲ適用シ相続稅ヲ課スルコトヲ得 相続人アルコト分明ナラザルトキハ稅率ノ最高キ相続人ニ對スル稅率ヲ適用シテ相続稅ヲ課ス 前二項ニ依リ課稅シタル後相続人確定シタルトキハ稅率ノ適用ヲ改訂シ税金ノ差額ヲ追徴シ又ハ還付ス

第十條 相続稅ヲ課セラレタル後五年以内ニ於テ更ニ相続開始シタルトキハ前ノ相続額ニ對スル相続稅ニ相當スル相続稅ヲ免除ス

相続稅ヲ課セラレタル後七年以内ニ於テ更ニ相続開始シタルトキハ前ノ相続額ニ對スル相続稅ノ半額ニ相當スル相続稅ヲ免除ス(昭和十三年法律第十四號)

第十一條 相続人ハ相続開始ヲ知リタル日ヨリ遺言執行者又ハ相続財産管理人ハ就職ノ日ヨリ三箇月以内ニ相続財産ノ目録及相続財産ノ價額中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ政府ニ提出スヘシ

相続カ帝國外ニ於テ開始シタルトキ又ハ前項ノ書類ヲ提出スヘキ者カ帝國内ニ住所ヲ有セザルトキハ前項ノ期間ハ六箇月トス

相続人確定シタルトキハ前二項ノ書類ヲ提出スルト同時ニ又ハ其ノ確定ノ日ヨリ一箇月以内ニ相

續人ノ相続關係ヲ記載シタル書面ヲ政府ニ提出スヘシ

第十二條 戶籍吏左ノ事項ニ關スル屆書ヲ受理シタルトキハ之ヲ收稅官廳ニ報告スヘシ

一 死亡又ハ失踪

二 戶主ノ隱居又ハ國籍喪失

三 戶主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其ノ家ヲ去リタルコト

四 入夫婚姻ニ因ル女戶主カ戶主權ヲ喪失シタルコト

五 戶主タル入夫ノ離婚

第十三條 課稅價格ハ政府之ヲ決定ス

課稅價格ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人ニ通知スヘシ

第十四條 相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人前條ノ決定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタ

ル日ヨリ二十日以内ニ申立テ再審査ヲ求ムルコトヲ得

相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人帝國内ニ住所ヲ有セザルトキハ前項ノ期間ハ之ヲ三箇月トス

第十五條 前條ノ請求アリタルトキハ相続稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定ス

審査委員會ノ組織及會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 課稅價格ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十七條 相続稅ハ一時ニ之ヲ納付スヘシ但シ稅金額百圓以上ナルトキハ相続稅ニ相當スル擔保ヲ

提供シ七年以内ノ年賦延納ヲ求ムルコトヲ得明治三十二年法律第四號及大正十五年法律第十三號改正  
前項ニ依リテ年賦延納ヲ求ムトスル者ハ第十三條ノ通知ヲ受ケタル後二十日以内ニ政府ニ出願スヘシ

相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人帝國内ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ三箇月トス  
第十八條 審査ヲ求メ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲シタル場合ト雖相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人ハ通知ヲ受ケタル金額ニ依リ税金ヲ納付スヘシ

第十九條 相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人ハ相続税ヲ納付シ又ハ其ノ延納ノ許可ヲ受ケタル後ニ非サレハ遺贈ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 相続財産ヲ以テ相続税ヲ完納スルコト能ハサルトキハ相続開始前一年内ニ被相続人ヨリ本法施行地ニ在ル財産ノ贈與ヲ受ケタル者ハ其ノ限度ニ於テ不足額ヲ納付スヘシ但シ相続税ノ延納ヲ許可シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 相続税ノ審査ニ參與シタル者ハ其ノ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十二條 相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人期限内ニ第十一條ニ依ル書類ヲ提出セサルトキハ政府ハ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人其ノ期間内ニ書類ヲ提出セサルトキハ政府ノ認ムル所ニ依リ課税價格ヲ決定シ催告ニ關スル費用及税金ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ

相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人ヨリ徴收スルコトヲ得

相続人二人以上ナル場合ニ於テハ各相続人ハ前項ノ徴收金ニ付連帶納付ノ責ニ任ス

第三項ノ金額ノ徴收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 左ニ掲クル場合ニ於テ本法施行地ニ在ル不動産及船舶以外ノ財産ニ付爲シタル贈與ノ價格カ千圓以上ナルトキハ遺產相続開始シタルモノト看做シ其ノ財産ノ價額ヲ課税價格トシテ本法ニ依リ相続税ヲ課ス(大正十一年法律)

一 親族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

二 分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戸主又ハ家族カ分家ノ戸主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

前項ノ遺產相続ニ關シテハ第十條ノ規定ヲ適用セス

第二十三條ノ二 信託ニ付委託者カ他人ニ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ有セシメタルトキハ其ノ時ニ於テ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ贈與又ハ遺贈シタルモノト看做シ第三條、第二十條及前條ノ規定ヲ適用ス但シ不動産又ハ船舶ノ歸屬スヘキ權利ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス(大正十一年四月法律)

前項ノ場合ニ於テ受益者不特定ナルトキ又ハ未タ存在セサルトキハ委託者ノ直系卑屬ヲ受益者ト爲シタルモノト看做シ其ノ受託者ヲ相続財産管理人ト看做ス(大正十五年法律)

第二十四條 第十一條ニ至リ提出シタル書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ相続税ノ遁脱ヲ圖リ又ハ遁脱シタル者ハ其ノ遁脱シ又ハ遁脱セムトシタル税金ノ三倍ニ相當スル罰

金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者ハ其ノ税金ヲ徴收シ其ノ罪ヲ問ハス(明治四十三年法律第二十條)  
第二十五條 第二十一條ニ違反シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ(明治四十三年法律第二十條)

第二十六條 府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ相続税ノ附加税ヲ課スルコトヲ得ス

附 則 本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相続ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

附 則 本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相続ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年一月二日勅令)

附 則 本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相続ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

依ル 本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相続ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

### ○相続税法施行規則

(明治三十八年三月二十三日勅令第六十八號)

第一條 相続開始地ノ稅務署ヲ以テ相続税ノ所轄稅務署トス

相続開始地カ相続税法施行地ニ在ラサルトキハ同法施行地ニ在ル相続財産所在地ノ稅務署ヲ以テ所轄稅務署トス相続財産カ二箇以上ノ稅務署管内ニ在ルトキハ其ノ主タル財産ノ所在地ノ稅務署ヲ以テ所轄稅務署トス

第二條 相続開始シタルトキハ相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人ハ相続税法第十一條第一項

ニ定メタル期間内ニ左ニ掲ケル事項ヲ記載シタル書面ニ相続財産目錄及相続財産ノ價格中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ相続人二人以上ナル場合ニ於テ其ノ一人ヨリ本條ニ依ル書類ヲ提出シタルトキハ他ノ相続人ハ之ヲ提出スルコトヲ要セス

一 被相続人ノ氏名

二 相続開始地

三 相続開始ノ日

四 家督相続、遺産相続ノ區別

五 被相続人カ相続開始前一年内ニ相続税法施行地ニ在ル財産ニ付贈與ヲ爲シタルトキハ其ノ財

産ノ價額及受贈者ノ住所氏名

六 相続人ノ住所氏名



七 相続人ト被相続人トノ続柄

前項ノ書類ヲ提出スル場合ニ於テ相続人確定セサルトキハ前項第六號及第七號ノ代リニ相続人ノ確定セサル理由ヲ記載スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ相続人確定シタルトキハ相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人ハ第一項第六號及第七號ニ掲タル事項ヲ記載シタル書面ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ  
相続稅法第二十三條ニ依リ遺產相続ノ開始ト看做サルヘキ場合ニ於テハ第一項第一號乃至第三號第六號及第七號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スルヲ以テ足ル

第三條 稅務署長ハ相続財産ノ價額ヲ評定シテ課稅價格ヲ決定シ之ヲ相続人、遺言執行者又ハ相続

財産管理人ニ通知スヘシ  
相続人、遺言執行者又ハ相続財産管理人ハ前項ノ決定ニ對シ其ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四條 課稅價格ノ決定ニ對シ異議アル者再審査ヲ求ムトスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ相続稅法

第十四條ニ定メタル期間内ニ所轄稅務署長ニ申出ツヘシ

第五條 稅務署長再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ相続稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ課稅價格ヲ決定シ之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第六條 各稅務署所轄内ニ相続稅審査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道沖繩縣ノ

區ニ付テハ大藏大臣ハ特ニ審査委員會ヲ置クコトヲ得

第七條 審査委員會ハ大藏大臣ノ命シタル收稅官吏二名及直接國稅百圓以上ヲ納ムル者三名ヲ以テ

之ヲ組織ス

第八條 審査委員ノ任期ハ三年トス

第九條 審査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第十條 審査委員會ハ毎年最初ノ開會ノ時ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第十一條 審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第十二條 審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第十三條 審査委員ハ自己又ハ自己ノ親族ノ相続ニ關スル審査ノ議事ニ與ルコトヲ得ス

第十四條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十五條 相続人二人以上ナル場合ニ於テ相続稅納付前相続財産ノ分割ヲ爲スモ相続稅ハ各相続人連帶シテ之ヲ納付スルコトヲ要ス

第十六條 相続稅ノ年賦延納ヲ求メトスル者ハ擔保ノ種類及延納期間ヲ記シ相続稅法第十七條ノ

期間内ニ所轄稅務署ニ出願スヘシ

第十七條 擔保ノ種類ハ左ニ掲タルモノニ限ル

一 稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券

二 土地

三 建 物

四 稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル保證人

第十七條 擔保トシテ有價證券ヲ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第十八條 稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキハ保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ變換セシムルコトヲ得

第十九條 年賦延納金額ハ相續稅金額ヲ延納年間ニ平分シテ之ヲ定ム

第二十條 増擔保ヲ提供スヘキ場合ニ於テ之ヲ提供セス又ハ保證人ヲ變換スヘキ場合ニ於テ之ヲ變換セサルトキハ稅務署長ハ年賦延納ノ許可ヲ取消シ稅金ヲ一時ニ徵收スヘシ年賦延納金滯納ノ場

合ニ於テモ亦同シ

第二十一條 年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ滯納シタルトキハ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以

テ其ノ稅金ニ充テ保證人アルトキハ保證人ニ通知シテ其ノ稅金ヲ納メシム

擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツヘキ場合ニ於テハ之ヲ公賣ニ付シ相續稅及公賣ノ費用ニ充テ不足アルト

キハ之ヲ追徴シ殘餘アルトキハ之ヲ還付ス

保證人ニ於テ稅金ヲ完納セサルトキハ納稅者ニ對シ滯納處分ヲ行ヒ仍稅金ニ不足アルトキハ保證

人ニ對シ滯納處分ヲ行フ

第二十二條 年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ完納シタルトキハ稅務署長ハ擔保解除ノ手續ヲ

爲スヘシ

第二十三條 相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人相續稅法第十一條ニ依ル書類ヲ期限迄ニ提出

セサルトキハ所轄稅務署長ハ期間ヲ定メテ之ヲ催告スヘシ

前項ノ期間内ニ書類ヲ提出セサルトキハ所轄稅務署長ハ其ノ認ムル所ニ依リ課稅價格ヲ決定スヘシ

附 則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○相續稅額速算表

算出方法 本表ノ課稅價格ヲ超過スル金額ニ稅率ヲ乘シテ得タル金額ニ當該欄内ノ稅額ヲ加ヘタルモノ

カ算出スヘキ稅額ナリ

千	圓	家 相 續			遺 産 相 續		
		第一種	第二種	第三種	第一種	第二種	第三種
千	圓	稅額	稅額	稅額	稅額	稅額	稅額
		超過額 ニ對シ	超過額 ニ對シ	超過額 ニ對シ	超過額 ニ對シ	超過額 ニ對シ	超過額 ニ對シ
千	圓	率	率	率	率	率	率
		スル	スル	スル	スル	スル	スル
千	圓	分	分	分	分	分	分
		ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ

相續稅 相續稅額速算表

相続税 相続税額速算表

課税価格	第一種 家		第二種 家		第一種 遺		第二種 遺	
	税額	超過額ニ対スルニ率	税額	超過額ニ対スルニ率	税額	超過額ニ対スルニ率	税額	超過額ニ対スルニ率
百 萬 圓	六六、一〇〇	一〇〇	七五、〇〇〇	一〇〇	九九、六〇〇	一〇〇	一一〇、〇〇〇	一〇〇
九 十 萬 圓	六〇、七〇〇	〇九	六九、〇〇〇	〇九	八七、一〇〇	〇九	九九、〇〇〇	〇九
八 十 萬 圓	五五、三〇〇	〇八	六四、〇〇〇	〇八	八二、〇〇〇	〇八	九四、〇〇〇	〇八
七 十 萬 圓	五〇、〇〇〇	〇七	五八、〇〇〇	〇七	七六、〇〇〇	〇七	八八、〇〇〇	〇七
六 十 萬 圓	四四、七〇〇	〇六	五二、〇〇〇	〇六	七〇、〇〇〇	〇六	八二、〇〇〇	〇六
五 十 萬 圓	三九、四〇〇	〇五	四六、〇〇〇	〇五	六四、〇〇〇	〇五	七六、〇〇〇	〇五
四 十 萬 圓	三四、一〇〇	〇四	四〇、〇〇〇	〇四	五八、〇〇〇	〇四	七〇、〇〇〇	〇四
三 十 萬 圓	二八、八〇〇	〇三	三四、〇〇〇	〇三	五二、〇〇〇	〇三	六四、〇〇〇	〇三

相続税 相続税額速算表

二十萬圓	二三、五〇〇	〇二	二八、〇〇〇	〇二	三二、〇〇〇	〇二	三六、〇〇〇	〇二
十五萬圓	一八、二〇〇	〇一	二二、〇〇〇	〇一	二六、〇〇〇	〇一	三〇、〇〇〇	〇一
十萬圓	一三、〇〇〇	〇〇	一六、〇〇〇	〇〇	二〇、〇〇〇	〇〇	二四、〇〇〇	〇〇
七萬圓	九、〇〇〇	〇〇	一一、〇〇〇	〇〇	一三、〇〇〇	〇〇	一五、〇〇〇	〇〇
五萬圓	五、〇〇〇	〇〇	七、〇〇〇	〇〇	九、〇〇〇	〇〇	一一、〇〇〇	〇〇
四萬圓	四、〇〇〇	〇〇	五、〇〇〇	〇〇	六、〇〇〇	〇〇	七、〇〇〇	〇〇
三萬圓	三、〇〇〇	〇〇	四、〇〇〇	〇〇	五、〇〇〇	〇〇	六、〇〇〇	〇〇
二萬圓	二、〇〇〇	〇〇	三、〇〇〇	〇〇	四、〇〇〇	〇〇	五、〇〇〇	〇〇
一萬圓	一、〇〇〇	〇〇	二、〇〇〇	〇〇	三、〇〇〇	〇〇	四、〇〇〇	〇〇
五千圓	〇、〇〇〇	〇〇	一、〇〇〇	〇〇	二、〇〇〇	〇〇	三、〇〇〇	〇〇

相續税 相續税額速算表

課税價格	第一種			第二種			第三種		
	税額	超過金額に対する税率	超過税率	税額	超過金額に対する税率	超過税率	税額	超過金額に対する税率	超過税率
六百萬圓	六四六、一〇三	一三〇七〇、四九三	一四〇八七、七九〇	一六〇八九、六四八	一八〇九三、四三三	一九〇九七、二二七	二一〇九九、〇二〇	二三〇九九、八一三	二四〇一〇、六〇六
五百萬圓	五三八、一〇〇	一三〇六三、四九三	一四〇七〇、七九〇	一六〇八〇、六四八	一八〇八四、四三三	一九〇八八、二二七	二一〇八八、〇二〇	二三〇八八、八一三	二四〇九九、六〇六
四百萬圓	四九六、一〇〇	一三〇〇〇、四九三	一三〇六六、七九〇	一五〇三三、一四八	一六〇三六、九三三	一七〇四〇、七二七	一八〇四四、五二〇	一九〇四八、三一三	二〇〇五二、一〇六
三百萬圓	三三六、一〇〇	一三〇三七、〇九三	一三〇三三、七九〇	一四〇三六、七四八	一五〇三九、五三三	一六〇四二、三二七	一七〇四五、一二〇	一八〇四七、九一三	一九〇五〇、七〇六
二百萬圓	二二六、一〇〇	一一〇三三、〇九三	一一〇三三、七九〇	一二〇三九、六四八	一二〇三九、四三三	一二〇三九、二二七	一二〇三九、〇二〇	一二〇三九、八一三	一二〇三九、六〇六
百五十萬圓	一六六、一〇三	一一〇一八、四九三	一一〇三三、七九〇	一二〇三三、六四八	一二〇三三、四三三	一二〇三三、二二七	一二〇三三、〇二〇	一二〇三三、八一三	一二〇三三、六〇六

相續税 相續税額速算表

課税價格	第一種			第二種			第三種		
	税額	超過金額に対する税率	超過税率	税額	超過金額に対する税率	超過税率	税額	超過金額に対する税率	超過税率
六百五十萬圓	六二七、一〇三	一三〇七〇、四九三	一四〇八七、七九〇	一六〇八四、六四八	一八〇八八、四三三	一九〇九二、二二七	二一〇九六、〇二〇	二三〇九九、八一三	二四〇一〇、六〇六
七百萬圓	七二六、一〇〇	一三〇八三、四九三	一四〇九三、七九〇	一六〇九〇、六四八	一八〇九四、四三三	一九〇九八、二二七	二一〇九九、〇二〇	二三〇九九、八一三	二四〇九九、六〇六
七百五十萬圓	八二六、一〇〇	一三〇九〇、四九三	一四〇九九、七九〇	一六〇九六、六四八	一八〇九九、四三三	一九〇九九、二二七	二一〇九九、〇二〇	二三〇九九、八一三	二四〇九九、六〇六
八百萬圓	九二六、一〇〇	一三〇九七、〇九三	一四〇一〇、七九〇	一六〇九九、六四八	一八〇九九、四三三	一九〇九九、二二七	二一〇九九、〇二〇	二三〇九九、八一三	二四〇九九、六〇六
八百五十萬圓	九七六、一〇〇	一三〇一〇、〇九三	一四〇一〇、七九〇	一六〇九九、六四八	一八〇九九、四三三	一九〇九九、二二七	二一〇九九、〇二〇	二三〇九九、八一三	二四〇九九、六〇六
九百萬圓	一、〇七六、一〇〇	一三〇一七、〇九三	一四〇一〇、七九〇	一六〇九九、六四八	一八〇九九、四三三	一九〇九九、二二七	二一〇九九、〇二〇	二三〇九九、八一三	二四〇九九、六〇六
九百五十萬圓	一、一〇一、一〇三	一三〇一七、〇九三	一四〇一〇、七九〇	一六〇九九、六四八	一八〇九九、四三三	一九〇九九、二二七	二一〇九九、〇二〇	二三〇九九、八一三	二四〇九九、六〇六
千萬圓	一、一六六、一〇〇	一三〇二四、〇九三	一四〇一〇、七九〇	一六〇九九、六四八	一八〇九九、四三三	一九〇九九、二二七	二一〇九九、〇二〇	二三〇九九、八一三	二四〇九九、六〇六

鑛  
業  
稅

# ○鑛業稅

## ○鑛業法(抄錄)

(明治三十八年三月八日法律第四十五號)

改正

明治四十年四月十日法律第四十一號

明治四十三年三月二十五日法律第十號

明治四十四年三月十一日法律第九號

昭和二年三月三十一日法律第三十六號

### 第一章 總則

第一條 本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、蒼鉛鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、磷鑛、黑鉛、石炭、亞

炭、石油、土瀝青及硫黃ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限ニ在ラス

含油層ト密接ノ關係アル可燃質天然瓦斯ハ之ヲ石油ト看做ス但シ工業用其ノ他ノ營利ヲ目的トセ

スシテ單ニ一家ノ自用ニ供スルモノニハ本法ヲ適用セズ(明治四十年法律第四十一號)

第五條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サレハ鑛業權者トナルコトヲ得ス

第六條 本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第十三條 本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂フ

第二章 鑛業權

第十九條 鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅並處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登錄ス共同鑛業權

者ノ脱退ニ付テモ亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登錄ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條 鑛業權者第七十二條ノ命令ニ從ハサルトキ又ハ鑛業稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ

鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第六章 鑛業稅

第八十一條 鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス

金鑛、銀鑛、鉛鑛及鐵鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス

自己ノ採掘シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨ

リ製出シタル鑛產物ニ付テモ亦前項ニ同シ但シ其ノ取得鑛物ノ數量カ自己ノ採掘シタル鑛物ノ數

量ニ超過スルトキハ其ノ超過部分ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(明治四十四年法律

第八十二條 鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅及營業收益稅ヲ課セス(昭和二年法律第三十六號改正)

第八十三條 鑛區稅ハ鑛區一千坪毎ニ毎年試掘ニ付テハ三十錢、採掘ニ付テハ六十錢トス但シ一千

坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス(明治四十三年法律第十號改正)

第八十四條 鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

第三十五條第一項ニ依ルモノヲ除クノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足

セル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ存續期間滿了ノ年ニ係ルモノ亦同

シ

第八十五條 鑛產稅ハ鑛產物ノ價格ノ百分ノ一トス

鑛產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣之ヲ告示ス其ノ告示セサルモノハ

之ヲ檢定ス

第八十六條 鑛產稅ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ即納スヘシ

第八十七條 共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス

第八十八條 北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各鑛產稅百分ノ十、試掘鑛區稅百分ノ三、採掘

鑛區稅百分ノ七以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得(明治四十三年法律第十號改正)

前項ノ附加稅ノ外北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫、鑛產物、鑛區若ハ直接鑛業用ノ

工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區並間切島其ノ他町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第八章 罰則

第九十一條 詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ鑛業稅ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ其ノ脱稅金額三倍ニ

相當スル罰金ニ處ス

第九十二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數

罪俱發ノ例ヲ用キス

第三百三條 鑛業權者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ鑛業權者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三百四條 鑛業權者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス  
本法ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ

第三百五條 前二條ノ場合ニ於テハ禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス  
第三百六條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

第三百七條 本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス  
鑛業條例ハ之ヲ廢止ス

第三百十三條 日本坑法ニ依リ借區ノ許可ヲ得タル者及鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可又ハ探掘ノ特許ヲ得タル者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ明治三十八年分ノ鑛區稅又ハ其ノ不足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算ス

第一百四十四條 明治三十八年分ノ鑛產稅ハ本法施行前ニ得タル鑛產物ニ付テモ之ヲ課ス

附則 (明治四十三年法律第十號)

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
非常特別稅法中鑛區稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附則 (明治四十四年法律第九號)

本法ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
附則 (昭和二年法律第三十六號)  
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○砂鑛區稅法 (明治四十三年三月二十五日法律第九號)

第一條 砂金採取ヲ目的トスル砂鑛權者ニハ左ノ割合ニ依リ毎年砂鑛區稅ヲ課ス

河床ニ非サルモノ  
砂鑛區域一町毎ニ 金三十錢  
砂鑛區域一千坪毎ニ 金三十錢

第二條 砂鑛區稅ノ賦課徵收ニ關シテハ鑛區稅ノ賦課徵收ニ關スル規定ヲ準用ス

第三條 北海道、府縣及市町村ハ砂鑛區稅ニ對シ百分ノ十以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

附則  
本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
非常特別稅法中砂金採取地稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス



登  
錄  
稅

◎登錄稅

○登錄稅法(明治二十九年三月二十八日法律第二十七號)

改正	明治三十年三月三十一日法律第三十一號
同	明治三十二年三月十四日法律第六十號
同	明治三十二年三月二十三日法律第八十三號
同	明治三十三年三月十日法律第四十四號
同	明治三十四年四月十三日法律第二十六號
同	明治三十五年二月二十四日法律第八號
同	明治三十八年一月一日法律第九號
同	明治三十八年三月十三日法律第五十七號
同	明治三十八年三月十三日法律第五十八號
同	明治三十九年四月十一日法律第三十五號
同	明治四十二年三月二十五日法律第十四號
同	明治四十二年四月十三日法律第三十一號
同	明治四十三年三月二十五日法律第十一號
同	明治四十三年六月十五日法律第六十四號
同	大正三年三月三十一日法律第二十一號
同	大正七年三月二十五日法律第十四號
同	大正十一年四月十七日法律第四十六號
同	大正十四年三月三十日法律第二十一號
同	昭和二年三月二十九日法律第六號

登錄稅 登錄稅法

第一條 登録税ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徴收ス

第二條 不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(昭和二年法律第...

一 相続ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ五

二 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ四十五

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ無償名義又ハ寄附行為ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ千分ノ二十五

三 前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ三十三

四 所有權ノ保存 不動産價格 千分ノ五

五 共有物ノ分割 不動産價格 千分ノ五

六 地上權、永小作權又ハ賃借權ノ取得 不動産價格 千分ノ一

存続期間十年以下ノモノ 不動産價格 千分ノ一

同二十年以下ノモノ 不動産價格 千分ノ二

同三十年以下ノモノ 不動産價格 千分ノ四

同五十年以下ノモノ 不動産價格 千分ノ七

同七十年以下ノモノ 不動産價格 千分ノ十

同百年以下ノモノ 不動産價格 千分ノ十五

同百年ヲ超スルモノ 不動産價格 千分ノ二十

存続期間ノ定メナキモノ 不動産價格 千分ノ一

存続期間ノ定メナキモノニシテ民法第二百六十八條若ハ第二百七十八條ノ規定ノ適用アルモノ又ハ借地法第二條第一項ノ規定ノ適用アルモノ 不動産價格 千分ノ四

前項ノ規定ニ因ル取得ニシテ存続期間三十年ヲ超スルモノ 不動産價格 千分ノ五

權利移轉ニ因ル取得ノ場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存続期間ヨリ控除シ其ノ殘期間ヲ以テ存続期間ト看做ス 要役地價格 千分ノ一

七 地役權ノ取得 不動産價格 千分ノ二十五

八 華族世襲財産ノ設定 債權金額又ハ不動産 千分ノ五・五

九 先取特權ノ保存又ハ取得 工事費用算金額 千分ノ五・五

十 質權、抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ五・五

十一 信託ノ登記 不動産價格 千分ノ四

所有權ニ付テハ 不動産價格 千分ノ二

所有權以外ノ權利ニ付テハ 債權金額 千分ノ五・五

十二 競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ四

十三 假差押、假處分 債權金額 千分ノ四

登録税 登録税法 二二二

登録税 登録税法

二二二

- 十四 抵当アル債権ノ差押 債権金額 千分ノ五・五
  - 十五 相續財産ノ分離 所有權ニ付テハ 不動産價格 千分ノ五・五  
所有權以外ノ權利ニ付テハ 不動産價格 千分ノ一
  - 十六 滞納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ 債権金額 千分ノ四
  - 十七 抹消シタル登記ノ回復 不動産每一箇 金四十錢
  - 十八 假登記 不動産每一箇 金四十錢
  - 十九 附記登記 不動産每一箇 金二十錢  
但シ一件ニ付稅額金二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス
  - 二十 登記ノ更正、變更又ハ抹消 但シ一件ニ付稅額金二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス 不動産每一箇 金二十錢
- 前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル
- 第三條** 船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(昭和二年法律第...
- 一 相續ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三
  - 二 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三・五
  - 三 前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ二・三

四 委付

- 五 所有權ノ保存 船舶價格 千分ノ三
- 六 賃借權ノ取得 船舶價格 千分ノ一
- 七 抵當權ノ取得 債権金額 千分ノ五・五
- 八 信託ノ登記 所有權ニ付テハ 船舶價格 千分ノ三  
所有權以外ノ權利ニ付テハ 船舶價格 千分ノ一
- 九 競賣ノ申立 債権金額 千分ノ五・五
- 十 假差押、假處分 債権金額 千分ノ四
- 十一 抵当アル債権ノ差押 債権金額 千分ノ五・五
- 十二 滞納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ 債権金額 千分ノ四
- 十三 登記證書ヲ提出セスシテ受ケタル特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移ス場合ニ於ケル登記 船舶每一箇 金一圓
- 十四 抹消シタル登記ノ回復 船舶每一箇 金四十錢
- 十五 假登記 船舶每一箇 金四十錢
- 十六 附記登記 船舶每一箇 金二十錢

登録税 登録税法

二二三

十七 登記ノ更正、變更又ハ抹消

船舶每一箇

金二十錢

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條ノ二 信託財産タル不動産又ハ船舶ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(昭和二年法律第六號)

一 委託者カ元本ノ歸屬權利者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ收益ノ受益者ナル信託

不動産

不動産價格

千分ノ四

船舶

船舶價格

千分ノ三

二 委託者カ收益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託財産ノ處分ヲ目的トスルモノ

不動産

不動産價格

千分ノ四十五

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五

船舶

船舶價格

千分ノ三十五

三 委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ收益ノ受益者ナル信託

不動産

不動産價格

千分ノ四十五

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五

船舶

船舶價格

千分ノ三十五

前項第一號ノ信託ニ付信託ノ登記事項ヲ變更シタル爲前項第二號又ハ第三號ノ信託ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ變更ノ登記ヲ以テ受託者ノ所有權取得ノ登記ト看做シ前項第二號又ハ第三號ノ規定ヲ適用ス

第三條ノ三 前條第一項各號ニ該當セサル信託(委託者カ收益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託財産ノ管理ヲ目的トスルモノ及委託者カ信託利益ノ全部ヲ受クヘキ信託)ニ因リ不動産又ハ船舶ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ登録税ヲ課セス但シ信託ノ登記事項ヲ變更シタル爲前條第一項各號ノ信託ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ變更ノ登記ヲ以テ受託者ノ所有權取得ノ登記ト看做シ前條ノ規定ニ依リ登録税ヲ納ムヘシ(昭和二年法律第六號)

第三條ノ四 委託者カ收益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託財産タル不動産又ハ船舶ノ管理ヲ目的トスルモノニ付其ノ元本ヲ受託者ヨリ受益者又ハ歸屬權利者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ左ノ登録税ヲ納ムヘシ(昭和二年法律第六號)

不動産

不動産價格

千分ノ四十五

登録税 登録税法

一一二六

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五

船舶

船舶價格

千分ノ三十五

受託者ヨリ受益者又ハ歸屬權利者ニ不動産又ハ船舶ヲ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ前項ニ該當スル場合ノ外登録税ヲ課セス

第三條ノ五

鐵道抵當原簿又ハ軌道抵當原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

(明治三十八年法律第五十八號、明治四十二年法律第三十二號、明治四十三年法律第六十四號及昭和二年法律第六號改正)

一 抵當權ノ取得

債權金額

千分ノ一

一ノ二 信託ノ登録

債權金額

千分ノ一(大正十一年法律第四十六號追加)

二 強制競賣、強制管理ノ申立

債權金額

千分ノ一

三 登録ノ更正、變更又ハ抹消

每一件

金二圓

第三條ノ六

工場財團登記簿、礦業財團登記簿又ハ漁業財團登記簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(昭和二年法律第六號改正)

一 抵當權ノ取得

債權金額

千分ノ一

二 信託ノ登記

債權金額

千分ノ一

三 競賣、強制管理ノ申立

債權金額

千分ノ一

四 假差押、假處分

債權金額

千分ノ一

五 抵當アル債權ノ差押

債權金額

千分ノ一

六 滞納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ

債權金額

千分ノ一

七 抹消シタル登記ノ回復

每一件

金二圓

八 假登記

每一件

金二圓

九 附記登記

每一件

金二圓

十 登記ノ更正、變更又ハ抹消

每一件

金二圓

第四條

船舶ノ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(明治三十二年法律第八十三號改正)

一 新規登録

毎十噸

金五十錢

二 轉籍

毎十噸

金十錢

三 除籍

毎十噸

金五錢

四 登録ノ變更

船舶毎一箇

金十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

第五條

(昭和二年法律第六號追加)

第六條 商會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ税金額二十圓未滿ナルトキハ二十四トス

登録税 登録税法

一一二七

(明治三十二年法律第八十三號、明治三十二年法律第六號改正)

- 一 合名會社、合資會社設立 財産ヲ目的トスル出資ノ價格 千分ノ五(明治四十三年法律第十一號及昭和二年法律第六號改正)
- 二 合名會社、合資會社出資増加 財産ヲ目的トスル増出資ノ價格 千分ノ五(同上)
- 三 株式會社設立 拂込株金額 千分ノ五(明治四十三年法律第十一號改正)
- 四 株式會社資本増加 増資拂込株金額 千分ノ五(同上)
- 五 株式會社第二回以後ノ株金拂込 毎回拂込株金額 千分ノ五(同上)
- 六 株式合資會社設立 拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ五(同上)
- 七 株式合資會社資本増加 増資拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ五(同上)
- 八 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込 毎回拂込株金額 千分ノ五(同上)
- 九 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立 拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ一(明治四十三年法律第十一號及昭和二年法律第六號改正)
- 十 合併ニ因リ消滅シタル會社又ハ組織變更ヲ爲シタル會社ノ合併當時又ハ組織變更當時ノ拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ヲ超過スル金額ニ付テハ千分ノ五
- 合併ニ因ル會社資本ノ増加 増資拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ一(同上)
- 但シ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ合併當時ノ拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出

資ノ價格ヲ超過スル金額ニ付テハ千分ノ五

十一 社債又ハ第二回以後ノ社債拂込(明治四十三年法律第十一號、大正三年法律第二十二號及昭和二年法律第六號改正)

商法第二百四條ノ拂込アリタル日(賣出シノ方法ニ依リ發行シタル場合ニ於テハ賣出満了ノ日)ヨリ最長ノ償還期限ニ至ル期間一年以下ノモノ

毎回拂込金額 千分ノ一

同三年以下ノモノ

毎回拂込金額 千分ノ二

同三年ヲ超ユルモノ

毎回拂込金額 千分ノ三

但シ産業債券、農工債券、北海道拓殖債券、興業債券、勸業債券又ハ東洋拓殖債券ニ付テハ千分ノ二

十二 支店設置 毎一箇所 金二十圓(明治四十三年法律第十一號及昭和二年法律第六號改正)

十三 本店又ハ支店ノ移轉 毎一件 金十圓(同上)

十四 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 毎一件 金十圓(同上)

十五 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 毎一件 金十圓(同上)

但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス

十六 登記ノ更正又ハ抹消 毎一件 金十圓(同上)

十六ノ二 合名會社、合資會社設立ノ取消

登録税 登録税法

- 十七 解散 每一件 金七圓(大正三年法律第二十一號追加)
- 十八 清算人ノ選任、解任又ハ變更 每一件 金七圓(同上)
- 十九 清算ノ結了 每一件 金二圓(同上)
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金二圓ノ登録税ヲ納ムヘシ朝鮮、臺灣、關東州、樺太若ハ南洋群島ニ於ケル法人又ハ外國會社カ登記ヲ受クルトキ亦同シ(昭和二年法律第二號改正)
- 第六條ノ二 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(明治三十二年法律第八十三號改正)
  - 一 商號ノ新設又ハ取得 每一件 金十圓(明治四十三年法律第十一號及昭和二年法律第六號改正)
  - 二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金十圓(同上)
  - 三 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金十圓(同上)
  - 四 商法第五條第七條ニ依ル登記 每一件 金五圓(同上)
  - 五 民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記 每一件 金五圓(同上)
  - 六 一登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金二圓(同上)
  - 七 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金二圓(同上)

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金一圓ノ登録税ヲ納ムヘシ(同上)

第七條 左ノ事項ニ付辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録 金二十圓
- 二 登録換 金十圓
- 三 取消ノ請求 金一圓
- 第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ
  - 一 新規登録
    - 醫師 金二十圓
    - 藥劑師 金十二圓
    - 獸醫 金十二圓
    - 蹄鐵工 金五圓
    - 假開業醫師 金五圓
    - 假免許獸醫 金三圓
    - 假免許蹄鐵工 金一圓(明治三十二年法律第八十三號追加)
  - 二 登録事項ノ變更 金五十錢

第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(同上)

登録税 登録税法



登録税 登録税法

一 新規登録

甲種船長

金十五圓

甲種一等運轉士

金十圓

甲種二等運轉士

金六圓

乙種船長

金十圓

乙種一等運轉士

金四圓

乙種二等運轉士

金三圓

丙種船長

金六圓

丙種運轉士

金二圓

機関長

金十五圓

一等機関士

金十圓

二等機関士

金六圓

三等機関士

金三圓

水先人

金二十圓

二 登録事項ノ變更

每一件

金五十錢

第十條

著作權ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(明治十三年法律第六十四條改正)

一 著作權ノ移轉

一 相續

每一件

金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金五圓

二 著作權ヲ目的トスル質權ノ設定

債權金額

千分ノ五・五(昭和二年法律第六號改正)

三 前號ノ權利ノ移轉

相續

每一件

金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金一圓

四 無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登録

相續

每一件

金二圓

四ノ二 信託ノ登録

每一件

金一圓(大正十一年法律第四十六號追加)

五 登録ノ更正、變更又ハ抹消

每一件

金二十錢

(昭和二年法律第六號第二項ヲ削ル)

第十一條 特許ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(明治十二年法律第三十一號改正)

一 特許權ノ移轉

相續

每一件

金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金十圓

二 實施權ノ設定又ハ保存

每一件

金五圓(昭和二年法律第六號改正)

三 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定

登録税 登録税法

登録税 登録税法

二三四

四 前二號ノ權利ノ移轉

債權金額

千分ノ五・五(同上)

相續

每一件

金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金二圓

五 信託ノ登録

每一件

金二圓(大正十一年法律第四十六號追加)

六 滞納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限

債權金額

千分ノ四

七 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録

每一件

金五十錢(昭和二年法律第六號追加)

八 抹消シタル登録ノ回復

每一件

金五十錢(同上)

九 假登録

每一件

金五十錢(同上)

十 登録ノ更正、變更又ハ抹消

每一件

金五十錢

(昭和二年法律第六號第二項ヲ制ス)

第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(明治四十二年法律第三十一號改正)

一 意匠權ノ移轉

相續

每一件

金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金二圓

二 實施權ノ設定又ハ保存

每一件

金一圓

三 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定

債權金額

千分ノ五・五(昭和二年法律第六號改正)

四 前二號ノ權利ノ移轉

相續

每一件

金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金一圓

五 信託ノ登録

每一件

金一圓(大正十一年法律第四十六號追加)

六 滞納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限

債權金額

千分ノ四

七 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録

每一件

金五十錢(昭和二年法律第六號追加)

八 抹消シタル登録ノ回復

每一件

金五十錢(同上)

九 假登録

每一件

金二十錢

十 登録ノ更正、變更又ハ抹消

每一件

第十二條ノ二 實用新案ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(明治四十二年法律第三十一號改正)

(昭和二年法律第六號第二項ヲ制ス)

一 實用新案權ノ移轉

相續

每一件

金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金五圓

登録税 登録税法

二三五

登録税 登録税法

二二六

- 二 實施權ノ設定又ハ保存 每一件 金二圓(昭和二年法律第六號改正)
  - 三 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定 債權金額 千分ノ五・五(同上)
  - 四 前二號ノ權利ノ移轉 相續 每一件 金五十錢
  - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
  - 五 信託ノ登録 每一件 金一圓(大正十一年法律第四十六號追加)
  - 六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
  - 七 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録 每一件 金五十錢(昭和二年法律第六號追加)
  - 八 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢(同上)
  - 九 假登録 每一件 金五十錢(同上)
  - 十 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢
- 第十三條 商標ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(明治四十二年法律第三十一號改正、昭和二年法律第六號追加)
- 一 商標權ノ移轉 每一件 金一圓

- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金十圓
  - 二 信託ノ登録 每一件 金二圓(大正十一年法律第四十六號追加)
  - 三 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録 每一件 金五十錢(昭和二年法律第六號追加)
  - 四 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢(同上)
  - 五 假登録 每一件 金五十錢(同上)
  - 六 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金五十錢
- 第十四條 營業權ニ關シ營業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(明治三十八年法律第十一號改正)
- 一 試掘權ノ設定 每一件 金百圓(明治四十三年法律第十一號改正)
  - 二 試掘權ノ變更 每一件 金四十五圓(同上)
  - 増區又ハ増減區 減區 每一件 金十圓
  - 三 試掘權ノ移轉 相續 每一件 金十圓
  - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金四十五圓(同上)
  - 四 探掘權ノ設定 新掘登録 每一件 金二百圓(同上)
  - 登録税 登録税法

二二七

登録税 登録税法

二三八

- 一 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 二 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 三 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 四 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 五 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 六 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 七 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 八 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 九 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 十 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 十一 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 十二 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 十三 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 十四 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 十五 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 十六 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 十七 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 十八 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 十九 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓
- 二十 採掘權ノ變更  
採掘權ノ變更  
每一件 金五十圓

- 一 信託ノ登録  
每一件 金十圓 (大正十二年法律第四十六號追加)
- 二 共同礦業權者ノ脱退  
每一件 金五圓
- 三 滯納處分以外ノ原因ニ因ル礦業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限  
債權金額 千分ノ四
- 四 廢業ニ因ル礦業權ノ消滅  
每一件 金五圓
- 五 抹消シタル登録ノ回復  
每一件 金四十錢 (昭和二年法律第六號追加)
- 六 假登録  
每一件 金四十錢 (同上)
- 七 登録ノ更正、變更又ハ抹消  
每一件 金二十錢 (昭和二年法律第六號改正)

- 第十五條 砂礦業ニ關シ砂礦業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ (昭和四年法律第十號改正)
- 一 砂礦權ノ設定  
新規登録  
採取區域 河床ハ每二里迄  
其ノ他ハ每十萬坪迄  
每一件 金十五圓
- 二 砂礦權ノ變更  
砂礦區合併  
採取區域 河床ハ每二里迄  
其ノ他ハ每十萬坪迄  
每一件 金三圓
- 三 砂礦區分割  
砂礦區分割  
設定砂礦區每一箇  
每一件 金三圓
- 四 砂礦權ノ變更  
砂礦權ノ變更  
採取區域 河床ハ每二里迄  
其ノ他ハ每十萬坪迄  
每一件 金十五圓

二二九

登録税 登録税法

減區

每一件

金一圓

二四〇

三 砂鑛權ノ移轉  
但シ増區ト同時ニ爲ス減區ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

相續

每一件

金五圓

四 相續以外ノ原因ニ因ル移轉  
抵當權ノ設定

新規登録

債權金額

千分ノ五・五(昭和二年法律第六號改正)

砂鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂鑛法ニ基キ爲シタル承諾又ハ協定ニ因ル設定

每一件

金五圓

五 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更  
六 抵當權ノ移轉

相續

每一件

金五圓

七 相續以外ノ原因ニ因ル移轉  
信託ノ登録

每一件

金十圓

八 滞納處分以外ノ原因ニ因ル砂鑛權又ハ抵當權ノ處分ノ制限

債權金額

千分ノ四

九 廢業ニ因ル砂鑛權ノ消滅

每一件

金一圓

十 抹消シタル登録ノ回復

每一件

金四十錢(昭和二年法律第六號追加)

十一 假登録

每一件

金四十錢(同上)

十二 登録ノ更正、變更又ハ抹消

每一件

金二十錢(昭和二年法律第六號改正)

第十五條ノ二 漁業權又ハ入漁權ニ關シ免許漁業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(昭和十三年法律第六十四號改正)

一 漁業權ノ移轉

相續

每一件

金一圓

二 相續以外ノ原因ニ因ル移轉  
漁業權ノ持分ノ移轉

相續

每一件

金五圓

三 相續以外ノ原因ニ因ル移轉  
入漁權ノ設定

每一件

金四十錢(昭和二年法律第六號改正)

四 入漁權ノ保存

每一件

金三圓

五 入漁權ノ移轉

相續

每一件

金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金二圓

登録税 登録税法

二四一

登録税 登録税法

- 六 入漁權ノ持分ノ移轉
  - 相續 每一件 金二十錢(昭和二年法律第六號改正)
  - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五十錢
- 七 賃借權ノ取得
  - 相續 每一件 金五十錢
  - 相續以外ノ原因ニ因ル取得 每一件 金二十圓
- 八 先取特權ノ保存又ハ取得
  - 債權金額又ハ工事費用豫算金額 千分ノ五・五(昭和二年法律第六號改正)
- 九 抵當權ノ設定又ハ移轉
  - 設定 債權金額 千分ノ五・五(昭和二年法律第六號改正)
  - 相續 每一件 金一圓
  - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金二圓
- 十 信託ノ登録
  - 債權金額 每一件 金一圓
- 十一 裁賣、強制管理ノ申立
  - 債權金額 千分ノ五・五(昭和二年法律第六號改正)
- 十二 假差押、假處分
  - 債權金額 千分ノ四
- 十三 抵當アル債權ノ差押
  - 債權金額 千分ノ五・五(昭和二年法律第六號改正)
- 十四 滞納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ
  - 債權金額 千分ノ四(昭和二年法律第六號改正)

- 十五 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金四十錢(昭和二年法律第六號改正)
- 十六 假登録 每一件 金四十錢(同上)
- 十七 附記登録 每一件 金二十錢(同上)
- 十八 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢(同上)

(昭和二年法律第六號第二項ヲ加)

第十六條 法人ノ合併ニ因ル不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ登録税ヲ納ムヘシ但シ他ノ規定ニ依リ算出シタル税額カ本條ニ依リ算出シタル税額ヨリ少キトキハ其ノ税額ニ依ル(昭和十二年法律第三十一號、大正三年法)

不動産又ハ船舶ノ價格 千分ノ三

第十六條ノ二 債權金額ニ依リ課税額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノ又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做シ先取特權、質權、抵當權又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少キトキハ其ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス但シ抵當アル債權ノ差押ヲ登記又ハ登録スル場合ニ於テハ差押ヘラルヘキ債權ノ額又ハ質權若ハ抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少キトキハ其ノ最少キモノヲ以テ債權金額ト看做ス(昭和二年法律第六號改正)

第十六條ノ三 管轄ヲ異ニスル登記所ニ於テ順次ニ不動産登記法第二百二十二條ノ規定ニ依ル登記ヲ受クル場合ニ於テ各登記所ニ於テ受クル登記ニ付テハ債權金額ヨリ既ニ登記ヲ受ケタルモノノ價

登録税 登録税法

格ヲ控除シタル残額ヲ以テ債権金額ト看做ス同上

第十六條ノ四 同一ノ債権ノ爲ニ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關シ種類ヲ異ニスルニ以上ノ登記登録ヲ受クル場合ニ於ケル登録税ニ關シテハ前條ノ規定ニ準シ命令ヲ以テ之ヲ定ム(同上)

第十七條 登録税ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徴收スルコトヲ得

第十八條 登録税ハ總テ金一錢以上トス一錢未満ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條 左ニ掲クルモノニハ登録税ヲ課セス但シ第八號、第九號、第十一號、第十二號及第十四號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル(前項ニ準テ第六號至第十號ニ依ル)

一 政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登録

二 社寺若ハ堂宇ノ敷地又ハ墳墓地ニ關スル登記

三 北海道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ニ關スル登記

四 府縣市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因ル府縣市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録

五 市町村ノ一部ニ屬スル財産ヲ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録

六 市町村又ハ市町村ノ一部ニ屬スル入會權ニシテ二以上ノ市町村ニ互ルモノヲ消滅セシムル爲

市町村又ハ其ノ一部カ其ノ入會財産ニ付爲ス權利ノ取得若ハ財産ノ分割又ハ之カ爲ニスル所有

權ノ保存ノ登記

七 産業組合、産業組合聯合會、産業組合中央會、漁業組合、漁業組合聯合會、重要輸出品工業組合、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合ニ付産業組合法、漁業法、重要輸出品工業組合法又ハ輸出組合法ニ基キテ爲ス登記

八 自作農ノ創設維持ノ爲ニスル北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ施設ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

九 北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會カ自作農ノ創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

十 北海道府縣市町村、産業組合又ハ住宅組合カ住宅ノ供給ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

十一 住宅又ハ住宅用地ニ付産業組合員又ハ住宅組合員カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記

十二 北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ヨリ自作農創設維持ノ爲資金ノ貸付ヲ受ケタル者カ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ土地所有權ノ取得ノ登記

十三 農業倉庫業者又ハ聯合農業倉庫業者ノ農業倉庫若ハ聯合農業倉庫又ハ其ノ敷地ニ關スル權利ノ取得ノ登記

十四 學校經營ヲ目的トスル法人ノ土地、建物ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記

第十九條ノ二 信託ニ因ル財産權取得ノ登記又ハ登録ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ登録

税ヲ課セス(昭和二年法律第六號)

一 委託者カ信託利益ノ全部ヲ受クヘキ信託ニ因リ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財産權取得ノ登記又ハ登録

二 受益者又ハ歸屬權利者ノ權利取得ノ登記又ハ登録但シ不動産又ハ船舶ノ所有權取得ニ付テハ第三條ノ四ニ依ル

三 信託ノ受託者更迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ權利取得ノ登記又ハ登録

前項第一號ノ規定ハ當該信託財産ニ付受益者(歸屬權利者ヲ含ム)變更ノ登記又ハ登録ヲ受クル場合ニハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テ信託財産ハ其ノ變更ノ登記又ハ登録ノトキニ於テ受託者ニ移轉シタルモノト看做シ登録税ヲ課ス

第十九條ノ三 登記又ハ登録ノ抹消又ハ錯誤若ハ遺漏カ當該官吏ノ過誤ニ出テタルトキハ其ノ回復又ハ更正ノ登記又ハ登録ニ付テハ登録税ヲ課セス(昭和二年法律第六號)

第十九條ノ四 登記所カ登記申請者ノ申告シタル課税標準ノ價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其ノ價格ヲ認定シ之ヲ登記申請者ニ告知スヘシ(明治三十二年法律第八十三號及大正三年法律第二十一號改正)

第十九條ノ五 前條ノ認定ヲ不當トスル登記申請者ハ費用ヲ豫納シテ評價人ノ評價ヲ登記所ニ請求スルコトヲ得(大正三年法律第二十一號)

前項ノ請求アリタルトキハ登記所ハ二人ノ評價人ヲ選定シ課税標準ノ價格ヲ評定セシム評價人ノ評價一致セサルトキハ其ノ平均價格ニ依ル

評定價格カ認定價格ヨリ多キトキハ認定價格ニ依リ、申告價格ヨリ少キトキハ申告價格ニ依リ課税標準ノ價格ヲ定ム

第十九條ノ六 前條ノ評價ニ不服アル登記申請者ハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ七日内ニ管轄地方裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得(大正三年法律第二十一號)

異議ニ付テノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十九條ノ七 登記申請者カ評價ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ申告價格ニ相當スル税額ト認定價格ニ相當スル税額トノ差額ヲ納付シタルトキハ登記所ハ直ニ登記ヲ爲スヘシ(同上)

第十九條ノ八 當該事件ニ關係ヲ有スル者ハ評價人タルコトヲ得ス(同上)

第十九條ノ九 評價人ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ受ク(同上)

第十九條ノ十 評價ニ要シタル費用ハ登記申請者ノ負擔トス但シ評定價格カ申告價格ヲ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラス(同上)

第十九條ノ十一 評價ノ費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ(同上)

附則

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録税ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附則(明治三十二年法律第六十號)



此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

附 則 (明治三十二年法律第八十三號)

此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス但シ第十條ハ著作權法施行ノ日ヨリ施行ス

附 則 (明治三十八年法律第九號)

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ鑛業原簿ノ登録ニ付テハ鑛業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前鑛業條例ニ依リ鑛業ニ關スル出願又ハ届出ヲ爲シ既ニ登録稅ヲ納メタル者鑛業法ニ依リ其事項ニ付鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ更ニ登録稅ヲ納ムルコトヲ要セス

附 則 (明治四十二年法律第十四號)

本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前砂鑛採取法ニ依リ砂鑛業ニ關スル出願又ハ届出ヲ爲シ既ニ手数料ヲ納メタル者ハ砂鑛法ニ依リテ爲ス其ノ事項ノ登録ニ付更ニ登録稅ヲ納ムルコトヲ要セス砂鑛法第二十七條第一項ニ依リ登録ニ付亦同シ

附 則 (明治四十二年法律第三十一號)

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム (明治四十二年八月勅令第二百二十二號及同月十月勅令第三百二十二號ヲ以テ之ヲ定ム)

附 則 (明治四十三年法律第十一號)

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中登録稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附 則 (明治四十三年法律第六十四號)

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム (明治四十三年六月勅令第二百七十六號、同年八月勅令第二百七十五號、同年十一月勅令第四百三十三號ヲ以テ之ヲ定ム)

附 則 (大正三年法律第二十二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正三年十月勅令第二百二十四號、同月十一月勅令第二百二十五號ヲ以テ之ヲ定ム)

附 則 (大正七年法律第十四號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十一年法律第四十六號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十一年十二月勅令第五百二十二號、同月十二月勅令第五百二十三號ヲ以テ之ヲ定ム)

附 則 (大正十四年法律第二十二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ各條別ニ之ヲ定ム (第三條ノ改正ハ大正十四年七月勅令第二百四十三號ヲ以テ大正十四年七月六日ヨリ施行ス、第五條ノ改正ハ大正十四年八月勅令第二百六十七號ヲ以テ大正十四年九月一日ヨリ施行ス)

附 則 (昭和二年法律第六號)

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ二ノ改正規定中第二項、第三條ノ三及第三條ノ四ノ改正規定ハ信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有權取得ニ付従前ノ規定ニ依リ登録稅ヲ課セラレタル不動産又ハ船舶ニ付テハ之ヲ適用セス

○登録税法施行規則

(明治三十二年五月十九日勅令第二百五號)

改正

明治三十八年三月二十五日勅令第七十七號

大正三十二年十月二十八日勅令第二百二十五號

大正三十二年十月五日勅令第四百十七號

昭和二年三月三十一日勅令第四十六號

第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録税ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ納ムヘシ

第二條 登録税額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

第三條 官廳又ハ公署ヨリ登記若ハ假登記又ハ登録若ハ假登録ヲ登記所又ハ登録官廳ニ囑託スヘキ

場合ニ於テハ登録税ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其ノ官

廳又ハ公署ハ囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登記所又ハ登録官廳ニ送付スヘ

シ(大正三年勅令第二  
百二十五號改正)

第四條 同一債權ノ爲ニ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關シ種類ヲ異ニスル二以上ノ登記又ハ登録ヲ

受クル場合ニ於テ登記所又ハ登録官廳ニ於テ受クル登記又ハ登録ニ付テハ債權金額ヨリ既ニ登記

又ハ登録ヲ受ケタルモノノ價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ債權金額ト看做シテ登録税ヲ徵收ス(昭和二

年勅令第四百十六號改正)

前項ノ場合ニ於テ其ノ登記又ハ登録中ニ登録税法第三條ノ五又ハ第三條ノ六ニ該當スルモノト其

ノ他ノモノトヲ包含スルトキハ先ツ登録税法第三條ノ五又ハ第三條ノ六ニ該當スルモノノ登記又

ハ登録ニ付登録税ヲ徵收ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル登記ニシテ其ノ該當スルコトニ付地方長官ノ證明アルモノニハ登

録税法第十九條第八號、第九號又ハ第十二號ノ規定ニ依リ登録税ヲ免除ス(昭和二年勅令第四百十六號改正)

一 自作農ノ創設維持事業ニ關スル國庫補助金ノ交付ヲ受ケテ行フ北海道府縣市町村、産業組合

又ハ産業組合聯合會ノ施設ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

二 自作農ノ創設維持ノ爲左ニ掲クル事項ニ付前號ノ場合ト同一ノ條件ヲ以テ行フ北海道府縣ノ

施設ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

(イ) 資金借受人ノ資格

(ロ) 購入土地ノ單價及總價額ノ制限

(ハ) 自作ヲ繼續スヘキ年限

(ニ) 讓渡又ハ抵當權設定ノ制限

(ホ) 資金借受人カ(イ)乃至(ニ)ノ事項ニ違反シタル場合ノ處置

三 北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ前二號ニ規定スル自作農ノ創設維持事業

ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

四 第一號又ハ第二號ニ規定スル自作農ノ創設維持事業ニ依リ資金ノ貸付ヲ受ケタル者カ貸付ノ

條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ

土地所有權ノ取得ノ登記

登録税 登録税法施行規則

二五二

- 第五條ノ二 左ニ掲クル住宅又ハ住宅用地ニ付産業組合員又ハ住宅組合員カ其ノ所属組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記ニハ登録税法第十九條第十一號ノ規定ニ依リ登録税ヲ免除ス但シ一人ニ付各一箇ニ限ル(昭和二年勅令第四百十六號)
- 一 住居ノ用ニ供スル家屋各階ノ坪數ノ合計カ三十五坪以下ナル住宅
- 二 七十坪以下ノ住宅用地
- 第五條ノ三 學校經營ヲ目的トスル法人ノ左ニ掲クル土地建物ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記ニハ登録税法第十九條第十四號ノ規定ニ依リ登録税ヲ免除ス(昭和二年勅令第四百十六號)
- 一 校舍及寄宿舎、圖書館其ノ他ノ保育又ハ教育上必要ナル附屬建物
- 二 前號ニ規定スル建物ノ敷地及運動場、實習用地其ノ他ノ直接ニ保育又ハ教育ノ用ニ供スル土地
- 第五條ノ四 管海官廳カ船舶法第十四條第二項ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲シ其ノ旨稅務署ニ通知シタルトキハ稅務署ハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ登録税ヲ徵收スヘシ(明治三十八年勅令第七十七號(昭和三年)及三十九年勅令第六十八號(昭和四年)施行)
- 第六條 登録税法第十九條ノ五ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ(大正三年勅令第二百二十五號)
- 登記申請者ノ豫納スヘキ費用ハ評價人ノ手當、旅費及手續ノ費用ニ相當スル金額トス
- 第七條 登録税法第十九條ノ九ニ依ル評價人ノ旅費ハ別表ニ依ル其ノ支給ニ付テハ内國旅費規則ヲ準用ス(大正三年勅令第二百二十五號)
- 第八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス

第八條 登録税法第十九條ノ九ニ依ル評價人ノ手當ハ評價ニ從事シタル日數ニ應シ一日金三圓以上

十圓以下ノ範圍内ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ定ム(大正三年勅令第二百二十五號(昭和三年)及三十九年勅令第四百十七號(昭和四年)施行)

附 則 (大正三年勅令第二百二十五號)

本令ハ大正三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十年勅令第四百十七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和二年勅令第四百十六號)

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ爲シタル土地台帳ノ登録ニ對スル登録税ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

(別表) (大正十年十月勅令第四百十七號ヲ以テ別表トス)

旅 費 額	
車馬賃	一里ニ付
宿泊料	一夜ニ付
日 當	一日ニ付
鐵 道 賃	二等旅客運賃但シ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乗車又ハ乗船ニ要スル運賃
七十五錢	五圓五十錢
三	四

登録税 登録税法施行規則

二五三

### ○領事官ノ取扱フ登記ノ登録税ニ關スル件

(明治三十九年八月十日  
勅令第二百十九號)

改正 大正十二年八月十三日勅令第三百六十四號

**第一條** 領事官ノ取扱フ登記事務ニ關シ本令ニ規定シタルモノニ付テハ登録税法ノ規定ヲ適用セス

**第二條** 商會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納付スヘシ

一 合名會社合資會社設立

財産ヲ目的トスル出資ノ價格

一萬圓未滿

金十圓

一萬五千圓未滿

金十三圓

二萬圓未滿

金十六圓

二萬五千圓未滿

金十九圓

二萬五千圓以上五十萬圓未滿ハ其ノ二萬五千圓ヲ超ユル金額一萬圓毎ニ金一圓ヲ加算シ、  
五十萬圓以上ハ其ノ五十萬圓ヲ超ユル金額一萬圓毎ニ金五十錢ヲ加算ス

二 合名會社合資會社出資増加

財産ヲ目的トスル出資ノ總額ニ對シ前號ニ依リ納付スヘキ登録税ノ金額ヨリ既ニ納付シタル  
設立又ハ出資増加ノ登録税ヲ控除シタル金額

三 株式會社株式合資會社設立

拂込株金額又ハ拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ニ付第一號ニ準ス

四 株式會社株式合資會社資本増加及第二回以後ノ株金拂込

第二號ニ準ス

五 前各號ニ該當セサル登記

每一件

金一圓

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ支那ニ流通スル銀貨幣ヲ以テ資本ノ額ヲ定メタル會社ノ財産ヲ目的ト  
スル出資ノ價額又ハ拂込金額ハ登記ヲ申請スル日ノ相場ニ依リ海關兩一兩ニ相當スル額ヲ日本貨  
幣一圓ニ換算シテ之ヲ定ム(大正十二年勅令第三百六十四號增加)

前二項ノ場合ニ於テ新ニ納付スヘキ登録税又ハ既納ノ登録税ト新ニ納付スヘキ登録税トノ合算額  
カ三百圓ヲ超ユルトキハ之ヲ三百圓ニ減シ既納ノ登録税三百圓ニ達シタルトキハ其ノ後ノ登記ニ  
付登録税ヲ課セス

財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ一件毎ニ金一圓ノ登録税ヲ  
納付スヘシ

**第三條** 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ一件毎ニ金一圓ノ登録税ヲ納付スヘシ

- 一 商號ノ新設又ハ取得
- 二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅

- 三 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅
- 四 商法第五條及第七條ニ依ル登録
- 五 民法第七百九十四條、第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記
- 六 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止
- 七 登記ノ更正又ハ抹消

第四條 印紙ヲ以テ登録税ヲ納付スルコト能ハサルトキハ現金ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得  
支那ニ流通スル銀貨幣ヲ以テ資本ノ額ヲ定メタル會社ノ登録税ハ登記ヲ申請スル日ノ相場ニ依リ  
支那ニ流通スル銀貨幣ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得(大正十二年勅令第三百六十四號追加)

附則

本令ハ明治三十九年八月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○國稅徵收法(抄錄) (明治三十年三月二十九日法律第二十一號)

第二十三條ノ四 差押ノ解除ニ關シテハ登録税ヲ納ムルコトヲ要セス

○北海道舊土人保護法(抄錄) (明治三十二年三月一日法律第二十七號)

第二條 (第二項省略)

前條ニ依リ下付シタル土地ハ下付ノ年ヨリ起算シテ三十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方税ヲ課セ

ス又登録税ヲ徵收セス

○保險業法(抄錄) (明治三十三年三月二十二日法律第六十九號)

第九十條 相互會社カ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營利ヲ目的トセサル社團法人ト同一ノ登録税ヲ納ム  
ルコトヲ要ス  
社員名簿ノ登記ニ付テハ登録税ヲ課セス

○永代借地權ニ關スル法律(抄錄) (明治三十四年九月二十一日法律第三十九號)

第三條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ニ付テハ登録税ヲ課セス

○北海道土功組合法(抄錄) (明治三十五年三月八日法律第十二號)

第九條 組合事業ヲ施行シタルカ爲土地ノ登記又ハ登録ヲ爲ストキハ登録税ヲ免除ス

○北海道國有未開地處分法(抄錄) (明治四十一年四月十四日法律第五十七號)

第二十條 土地ノ賣拂又ハ付與ヲ受ケタル者六月以内ニ其ノ原因ニ依リ登記ヲ請フトキ又ハ土地臺  
帳ニ登録スルトキハ其ノ登録税ヲ免除ス

登録税 保險業法 永代借地權ニ關スル法律 北海道土功組合法  
北海道國有未開地處分法

前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス者ハ其ノ申請書ニ本法ニ依リ處分セラレタル土地タルコトヲ記載スルコトヲ要ス

○耕地整理法(抄録) (明治四十二年四月十三日法律第三十號)

第十條 耕地整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登録ヲ爲ストキハ登録税ヲ免除ス

前項ノ規定ハ耕地整理ノ施行ニ伴ヒ大字若ハ字ノ名稱又ハ其ノ區域ニ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

○破産法(抄録) (大正十一年四月二十五日法律第七十一號)

第二百二十二條 登記所カ前三條ノ規定ニ依リテ登記ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ登記ヲ爲

スコトヲ要ス  
前項ノ登記ニ付テハ登録税ヲ課セス

○和議法(抄録) (大正十一年四月二十五日法律第七十二號)

第八條 破産法第百十九條、第百二十條、第百二十二條、第百二十四條ノ規定ハ和議開始、和議開始決定取消又ハ和議廢止ノ決定アリタル場合及和議認否又ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

○産業組合中央金庫法(抄録) (大正十二年四月六日法律第四十二號)

第八條 (第一項省略)

登録税法及印紙税法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第十七條 (第一項及第二項省略)

所得税法登録税法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス

○復興貯蓄債券法(抄録) (大正十三年七月二十二日法律第十五號)

第六條 復興貯蓄債券ニハ印紙税ヲ、復興貯蓄債券ノ發行ニ依ル社債ノ登記ニハ登録税ヲ、復興貯蓄債券ノ利子ニハ所得税ヲ課セス

○御料地拂下地ノ地租及登録税免除ニ關スル法律

(昭和二年三月三十日法律第十八號)

第一條 北海道ニ於ケル御料地ニ屬スル未開地ヲ開拓シテ拂下ヲ受ケ又ハ之ヲ開拓シ若ハ素地ノ儘使用スルノ目的ヲ以テ拂下ヲ受ケ民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ民有ト爲リタル年ノ翌年ヨリ起算シ十年ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ賦課セズ

第二條 前條ノ拂下地ニ付テノ拂下ニ因ル所有權取得ノ登記ニハ登録税ヲ免除ス但シ所有權取得後

登録税 産業組合中央金庫法 復興貯蓄債券法 御料地拂下地ノ登録税免  
除ニ關スル件

登録税 御料地拂下地ノ登録税免除ニ關スル件

二六〇

六月内ニ登記ノ囑託ヲ請求セザルトキハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ノ規定ハ本法施行前拂下ヲ受ケ民有ト爲リタル土地ニシテ本法施行ノ際未ダ地價ノ設定ヲ爲サザルモノニモ亦之ヲ適用ス

第二條ノ規定ハ前項ノ規定ニ該當スル土地ニシテ本法施行ノ際未ダ拂下ニ因ル所有權取得ノ登記ヲ受ケザルモノニモ亦之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ六月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

兌換銀行券發行稅



## ◎兌換銀行券發行稅

### ○兌換銀行券條例(抄録)(明治十七年五月二十六日太政官布告第十八號)

改正 明治二十一年八月 一 日勅令第五十九號  
明治二十三年五月 十七日法律第三十四號  
明治三十年三月二十九日法律第十八號  
明治三十二年三月 十日法律第五十五號

**第二條** 日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ但シ銀貨及銀地金ハ引換準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス(明治二十一年勅令第五十九號(五十九號本條改正) (十八號但書追加) (明治三十年法律第十八號))  
日本銀行ハ前項ノ外特ニ一億二千萬圓ヲ限リ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但本項一億二千萬圓ノ内二千七百萬圓ハ明治二十二年一月一日以降ニ係ル國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限トシ漸次發行スルモノトス(明治二十一年勅令第五十九號(五十九號本條改正) (三十四號本條改正) (五十五號本條改正))  
日本銀行ハ市場ノ景況ニ由リ流通貨幣ノ増加ヲ必要ト認ムルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ得テ前二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但其割合ハ其時々大藏大臣之ヲ定ム(明治二十一年勅令第五十九號(五十九號本條追加))

兌換銀行券發行稅 兌換銀行券條例

兌換銀行券發行稅

兌換銀行券發行稅納稅ニ關スル法律 發行稅ヲ課スヘキ兌換券ニ六二

日本銀行ハ政府發行紙幣消却ノ爲メ二千二百萬圓ヲ限り無利子ヲ以テ政府ヘ貸付スヘシ(明治二十一年  
法律第二十號)

前項貸付金ノ償還年限及毎年償還金額ハ大藏大臣之ヲ定ム(明治二十一年法律第二十號  
第五十九條本項追加)

○兌換銀行券發行稅納稅ニ關スル法律 (明治三十二年三月十日法律第五十六號)

日本銀行ハ兌換銀行券條例第二條第二項ニ該當セル保證ニ據リ發行スル兌換券ノ每一箇月ノ平均發行高ニ對シ其ノ發行稅トシテ一箇年千分ノ十二半ノ割合ヲ以テ政府ヘ納稅スヘシ但シ政府ノ特命ニ依リ一箇年千分ノ十若ハ其ノ以內ノ利息又ハ無利息ヲ以テ政府又ハ其ノ他ヘ貸付ケタル兌換券ニ對シテハ其ノ納稅義務ヲ免除ス  
本法納稅ノ義務ハ日本銀行カ既ニ負擔シ及將來ニ於テ負擔スヘキ他ノ義務ト關係ナキモノトス  
納稅期限ハ一箇年ヲ兩度ニ區分シ前半季分ヲ八月三十一日後半季分ヲ翌年二月二十八日限り納ムルモノトス

○發行稅ヲ課スヘキ兌換券ノ平均發行高其他ニ

關スル件 (明治三十二年三月二十七日大藏省令第九號)

改正 明治三十三年五月十九日省令第二十三號  
明治三十五年十一月六日省令第二十八號

本年法律第五十六號ニ依リ發行稅ヲ課スヘキ兌換券ノ每一箇月平均發行高ハ毎日ノ現發行高ヨリ政府ノ特命ニ依リ一箇年千分ノ十若ハ其ノ以內ノ利息又ハ無利息ヲ以テ貸付ケタル金額ヲ控除シタルモノヲ一箇月分加算シ其ノ月ノ日數ヲ以テ除シタルモノトス

稅額ハ一箇月毎ニ算出シ其ノ六箇月分ヲ合計シテ半季分ノ稅額トス  
日本銀行ハ左記様式ニ準シ毎月平均發行額表ヲ調製シ翌月五日限り之ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ(明治三十五年省令第二十八號本項改正)

様式略(明治三十三年省令第二十三號圖式改正)

○兌換銀行券制限外發行稅納付ニ關スル件

(大正元年十月三十一日往第一萬一千三百七十四號大藏大臣達)

兌換銀行券條例第二條第三項ニ依リ發行スル兌換銀行券制限外發行稅ハ自今一箇年ヲ兩度ニ區分シ前半季分ヲ八月三十一日後半季分ヲ二月末日限り之ヲ納付スヘシ  
兌換銀行券制限外發行額及償還額ハ六箇月分ヲ取纏メ報告書ヲ作り翌月十五日迄ニ所轄稅務署ニ差出スヘシ

酒

稅

酒

稅

# ◎酒 稅

## ○酒造稅法

(明治二十九年三月二十八日法律第二十八號)

改正  
 明治三十一年十二月二十七日法律第二十三號  
 同 三十四年三月三十日法律第七號  
 同 三十八年一月一日法律第三號  
 同 四十一年三月十六日法律第十八號  
 大正 七年三月二十三日法律第六號  
 同 九年七月三十一日法律第十四號  
 同 十一年三月二十八日法律第十六號  
 同 十五年三月二十七日法律第十四號

第一條ノ一 此ノ稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎ノ五種トス(明治三十四年法律第七號改正)

第一條ノ二 此ノ稅法ニ於テ清酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘ

テ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノヲ謂フ(明治三十八年法律第三號本條改正)

左ニ掲クルモノハ清酒ト看做ス

- 一 前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍、稗、清酒粕又ハ燒酎ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ
- 二 清酒ト又ハ清酒ト看做シタルモノヲ粕漉シタルモノ

三 清酒又ハ前二號ニ依リ清酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以内ノ燒酎又ハ酒精ヲ混和シタルモノ

第一條ノ三 此ノ稅法ニ於テ濁酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシテ醱酵セシメ又ハ酒精母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノヲ謂フ(同上)

前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍若ハ稗ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒精母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノハ濁酒ト看做ス

第二條ノ四 此ノ稅法ニ於テ白酒ト稱スルハ米又ハ米麴ト清酒、濁酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シテ碾碎シタルモノヲ謂フ(同上)

前項原料ノ外水ヲ混和シテ碾碎シタルモノハ白酒ト見做ス

第一條ノ五 此ノ稅法ニ於テ味淋ト稱スルハ米及米麴ト清酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シ濾過シタルモノヲ謂フ(同上)

左ニ掲クルモノハ味淋ト看做ス(大正九年法律第十四號本條改正)

一 前項原料ノ外味淋粕又ハ水ヲ混和シ濾過シタルモノ

二 味淋又ハ味淋ト看做シタルモノヲ粕濾シタルモノ

第一條ノ六 此ノ稅法ニ於テ燒酎ト稱スルハ清酒粕ヲ蒸餾シタルモノヲ謂フ(明治三十八年法律第三號本條追加)

左ニ掲クル物品ヲ原料トシテ蒸餾シタルモノハ燒酎ト看做ス

一 清酒

二 濁酒

三 味淋粕

四 米、麥、粟、黍、稗、玉蜀黍、馬鈴薯、甘藷若ハ味淋粕ト麴及水トヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒精母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ(大正七年法律第十四號本條改正)

第二條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條 其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一酒造年度トス

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス(明治三十一年法律第三號改正)

第一種 酒精分二十三度以下ノ濁酒 一石ニ付 三十六圓

第二種 酒精分二十三度以下ノ清酒白酒及酒精分三十度以下ノ味淋燒酎 一石ニ付 四十圓

第三種 酒精分三十度ヲ超エ四十五度以下ノ燒酎 一石ニ付 前號ノ金額ニ酒精分三十度ヲ超ユル一度毎ニ一圓五十錢ヲ加ヘタル金額

第四種 酒精分二十三度ヲ超ユル清酒濁酒白酒酒精分三十度ヲ超ユル味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎 一石ニ付 酒精分一度毎ニ一圓八十錢

酒稅 酒造稅法

前項ニ於テ酒精分ト稱スルハ攝氏驗温器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量トス(明治三十一年法律第七號本條追加)

第五條 政府ハ一酒造年度間清酒ハ三百石濁酒ハ百石焼酎ハ十石以上ヲ製造スル者ニ非サレハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘス但シ清酒又ハ濁酒制限石數以上ヲ製造スル者ニハ他ノ酒類ニ關スル制限ヲ適用セス(明治三十一年法律第七號(明治三十一年法律第七號)改正)(大正七年法律第七號(明治三十一年法律第七號)改正)(大正七年法律第七號(明治三十一年法律第七號)改正)

酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者本條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サザリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル造石税ヲ課ス但シ其ノ製造セザリシ石數ニ對シテハ其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテニ査定シタルモノト看做シ濁酒ニ在リテハ一石ニ付三十六圓、清酒又ハ焼酎ニ在リテハ一石ニ付四十圓ノ割合ニ依リ其ノ造石税ヲ徵收ス(大正九年法律第二十四號(大正十五年法律第七號)改正)(十四號本條改正)(十四號本條改正)

第六條 造石税ノ納期ヲ分テ左ノ四期トス(明治三十一年法律第二十三號改正)

第一期 七月十六日ヨリ同三十一日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ係ル税額四分ノ一

第二期 十月十六日ヨリ同三十一日限

同 上

第三期 翌年二月十六日ヨリ同二十八日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル税額二分ノ一

第四期 翌年三月十六日ヨリ同三十一日限

前納額ノ殘數

第七條 第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタルトキ又ハ酒類ヲ製造スル者納稅保證物ノ免除ヲ得スシテ保證物ノ提供ヲ爲サザルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス造石税ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得(明治三十一年法律第七號(明治三十一年法律第七號)改正)(明治三十一年法律第七號(明治三十一年法律第七號)改正)

前項ノ場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ造石税ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒類ヲ差押フルコトヲ得(明治四十一年法律第十八號本條追加)

第八條 酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依ル但シ命令ノ定ムル所ニ依リ清酒ハ査定石數ノ百分ノ七以内、味淋ハ査定石數ノ百分ノ三以内、焼酎ハ査定石數ノ百分ノ二以内ノ滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除スルコトヲ得(大正七年法律第七號(大正九年法律第七號)改正)(大正七年法律第七號(大正九年法律第七號)改正)(大正七年法律第七號(大正九年法律第七號)改正)

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定ス

第八條ノ二 同一製造場内ニ於テ酒類ヲ製造スルカ爲原料トシテ使用スル酒類ニハ造石税ヲ課セス(大正九年法律第十四號本條追加)

前項ノ原料用酒類ハ製成ノ時石數ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第九條 粕濾シタル酒類ハ粕濾ニ依リ増加シタル分ノミニ就キ其ノ造石數ヲ査定ス

第十條 酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル醗ハ左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シタルモノトシテ其ノ造石數ヲ査定ス

一 他人ニ讓渡ストキ

二 公賣セラルルトキ

三 飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第八條ノ二ニ依リ檢定シタル酒類前項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ檢定石數ヲ以テ査定石數トシ造石税ヲ課ス(大正九年法律第十四號本項追加)

第十一條 酒類ヲ製造スル者既ニ査定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ニ對シテハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ノ外其ノ造石税ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條 左ノ酒類ハ其ノ造石税ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス(明治三十一年法律第二十三號改正)

一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ

二 腐敗シタル酒類ニシテ政府ノ承認ヲ得酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタルモノ

三 腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ニシテ燒酎ノ製造ニ供スルモノ(明治三十八年法律第三號本項改正)

四 容器ノ損傷若ハ塞栓ノ自然ノ脫去ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十三條 酒類ヲ製造スル者ハ納税保證トシテ一酒造年度見込造石數一石ニ付金七圓ノ割合ヲ以テ

算出シタル金額ニ相當スル保證物ヲ豫メ提供スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケ造石數査定ノ都度本條ノ割合ヲ以テ保證物ヲ提供スルコトヲ得(大正九年法律第十四號本項改正)

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數前項ノ見込造石數ヨリ十石以上増加シタルトキハ其ノ石數ニ應シ前項ノ割合ニ依リ保證物ヲ増補スヘシ

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數第一項ノ見込造石數ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石數ニ應シ第一項ノ割合ニ依リ保證物ノ減少ヲ請フコトヲ得

酒類ヲ製造スル者此ノ法律ヲ犯シテ處罰セラレタルトキ又ハ造石税ニ關シテ滯納處分ヲ受ケタルトキハ爾後三年間政府ハ造石税全額マテノ保證物提供ヲ命スルコトヲ得

前三項ノ場合及保證物ノ價格ニ異動ヲ生シタル場合ヲ除クノ外保證物ノ増減ヲ爲サス保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十一年法律第二十三號本條改正)

第十四條 左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス

一 相當ノ納税保證人ヲ供シタルトキ

二 納税保證トシテ造石税額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ

三 造石税ヲ前納シタルトキ

四 酒類ヲ製造スル者ノ屬スル酒造組合ニ於テ納税ヲ擔保シタルトキ(明治三十一年法律第二十三號本條追加)

第十五條 酒類ヲ製造スル者造石税ヲ納メサルニ依リ滯納處分ヲ執行スルトキハ先ツ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ税金ヲ徴收スヘシ但シ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ價



格徴收スヘキ税金額及滞納處分費ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時ニ他ノ財産ニ就キ滞納處分ノ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス(明治三十一年法律第二十三號改正)

第十六條 酒類ヲ製造スル者造石税ヲ完納スル能ハサルトキハ納税保證人又ハ納税ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ハ納税者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス(同上)

第十七條 酒類ヲ製造スル者納税保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十八條 酒類ヲ製造スル者ハ造石數査定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十九條 收税官吏ハ酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒類、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造又ハ販賣上必要ナル建築物、材料、器械其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得(明治三十四年法律第七號改正)

第二十條 (明治三十八年法律第三號)

第二十一條 (明治三十八年法律第三號)

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル者ハ三十圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒類及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス(明治三十一年法律)  
(明治三十四年法律)  
(明治三十八年法律)  
(明治四十一年法律)  
前項ノ酒類ニ付テハ第六條ノ納期ニ拘ラス其造石税ヲ徴收ス

第二十三條 (明治三十八年法律第三號)

第二十三條ノ二 (同上)

第二十三條ノ三 (明治三十四年法律第七號)

第二十四條 酒類ヲ製造スル者詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免レ又ハ免レムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス(明治三十四年法律)

第二十五條 酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石税ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス(同上)

第二十六條 納税保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者滞納處分ヲ受クルモ仍税金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石税ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス(同上)

第二十七條 酒類製造用ト否トヲ問ハス其ノ製造シタル酒母又ハ醪ノ検査ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス(明治三十一年法律)  
(明治三十四年法律)  
(明治三十七年法律)

第二十八條 酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス(明治三十四年法律第七號改正)

キハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十一條 此ノ稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ〔不論罪〕及減輕、再犯加重、〔數罪俱發〕ノ例ヲ用キス但シ刑法〔第七十五條第一項〕ノ場合ハ此限ニ在ラス

第三十二條 酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ稅法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス(明治三十四年法律第七號改正)

第三十三條 第二十四條乃至第二十八條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ酒類ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ酒類製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得(明治四十二年法律第六號、大正七年法律第六號、大正十八號本條改正)

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製成其ノ他必要ノ行為ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第三十四條 酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造ノ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テモ造石稅完納前ニアリテハ總テ此ノ稅法ノ規程ニ從フモノトス(明治四十二年法律第十八號改正)

第三十五條 府縣及市町村ハ此ノ法律ニ依リ造石稅ヲ課スル酒類ニ對シ又ハ其ノ酒類ノ造石數若ハ造石稅ヲ標準トシテ府縣稅若ハ地方稅及市町村稅其ノ他如何ナル名義ヲ以テスルモ課稅スルコトヲ得ス(明治三十一年法律第二十三號改正)

第三十五條ノ二 此ノ稅法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒類ハ此ノ稅法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ此ノ稅法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ酒類ノ石數

ニ應シ第四條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五拾圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒類及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス(明治四十一年法律第十八號本條追加)

第三十五條ノ三 政府ハ酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得(大正十五年法律第十號本條追加)

前項ノ酒造組合ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

附則

第三十六條 神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルトキハ一年ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ總テ無稅トス

第三十七條 此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十三年布告第四十號同年布告第四十一號同十六年布告第四十二號及同二十二年法律第二十四號ハ此稅法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十九年九月三十日前檢査濟石數ニ係ル造石稅ニ關シテハ仍明治十三年布告第四十號ニ依ル

第三十八條 (明治四十一年法律第十八號例)

第三十九條 (同上)

第四十條 (同上)

附則 (明治三十一年法律第二十三號)

此ノ法律ハ明治三十二年一月一日ヨリ施行シ同日以後製成ニ係ル酒類ニハ其ノ製造着手ノ時期ニ拘ラス此ノ法律ヲ適用ス  
此ノ法律施行前既ニ免許ヲ受ケタル者ニハ三十一年度三十二年分ニ限り第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

附則 (明治三十四年法律第七號)

本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日前ニ於テ製成シタル酒類ニハ舊稅率ヲ適用ス

附則 (明治三十八年法律第三號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (明治四十一年法律第十八號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三十八條削除ニ關スル規定ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス非常特別稅法中酒造稅法ニ依ル酒類及沖繩縣酒類出港稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附則 (大正七年法律第六號)

本法ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

酒類製造ノ免許ヲ受ケ本法施行ノ際現ニ酒類製造者タルモノニ限り第五條ノ規定ノ適用ニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ本法施行前ヨリ引續キ酒類ヲ製造セサルモノニ付テハ第三十三條第一項ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附則 (大正九年法律第十四號)

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十三條ノ改正規定ノ適用ニ付テハ大正九年九月三十日迄仍從前ノ例ニ依ル

附則 (大正十一年法律第十六號)

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十五年法律第十四號)

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

沖繩縣ニ於テ製造スル酒類ニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

沖繩縣ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國内ノ他ノ地方へ移出スルトキハ其ノ造石稅ト本法ニ規定スル造石稅トノ差額ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ樺太酒類出港稅法第三條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス

### ○酒造稅法施行規則

(明治二十九年八月十八日勅令第二百八十七號)

改正 明治三十一年十二月二十九日勅令第三百六十二號

同 三十四年八月二十三日勅令第六十四號

同 三十五年十月三十一日勅令第二百五十三號

同 三十八年一月一日勅令第三號

同 四十一年三月十六日勅令第三十八號

大正 七年三月二十九日勅令第三十二號  
 同 九 年七月三十一日勅令第二百二十九號  
 同 九 年十二月二十七日勅令第五百八十二號  
 同 十一年三月二十八日勅令第四十九號  
 同 十五年三月三十一日勅令第三十二號

第一條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ酒類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シ

タル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ(明治三十二年勅令第一六十四號修正)(明治三十八年勅令第三十八號修正)

第一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ(明治三十八年勅令第三十八號修正)

一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 酒造稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者若ハ雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第二條 酒類ノ製造場ハ敷地ノ連続スルト否トフ間ハ總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面並ニ酒造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業着手前ニ稅務署長ニ提出スヘシ但シ酒類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ此限ニ在ラス(明治三十四年勅令第一六十四號修正)(明治三十五年勅令第二五三號修正)

前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スハシ酒類製造主ノ居所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 酒類製造主ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ稅務署長ハ其容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス(明治三十五年勅令第二五三號修正)

第五條 酒類製造主ハ毎酒造年度ニ於テ製造スヘキ毎酒類ノ見込造石數、製造着手ノ時期、製造方法及其ノ仕込數ヲ記載シ其ノ酒造年度開始前ニ稅務署長ニ申告スヘシ但シ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業着手前ニ本項ノ申告ヲ爲スヘシ(明治三十二年勅令第一六十四號修正)(明治三十五年勅令第二五三號修正)

前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其都度申告スヘシ但シ製造方法ノ變更ニ係ルモノハ承認ヲ受クヘシ

第六條 酒類製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ(明治三十四年勅令第一六十四號修正)

相續ノ場合ヲ除ク外酒類製造ノ事業ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造主ハ酒造稅法第二條ニ依リ其ノ免許取消ヲ求ムヘシ

第六條ノ二 酒類製造主其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ(明治三十八年勅令第三十八號修正)

第六條ノ三 酒類製造主其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ(同上)

第六條ノ四 變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ酒造稅法第五條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サザリシ事由ノ證明ハ酒造年度終了後三箇月以内ニ之ヲ爲スヘシ(同上)

第七條 酒類ノ造石税ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第八條 酒類ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

第九條 酒造税法第八條第二項但書ニ依リ控除スル滓引減量又ハ貯藏減量ハ清酒ニ在リテハ査定石數ノ百分ノ七、味淋ニ在リテハ査定石數ノ百分ノ三、焼酎ニ在リテハ査定石數ノ百分ノ二トス  
犯則ニ係ル清酒、味淋又ハ焼酎ニ付テハ前項ノ滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除セス(明治三十四年勅令第百六十四號(大正九年勅令第三十)二十九號本條改正)

第十條 酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル酒類又ハ醪、酒精ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ(明治三十四年勅令第百六十四號(大正九年勅令第三十)二十九號本條改正)

第十一條 同七(大正九年勅令第百二十九號河野)

第十二條 同七(大正九年勅令第百二十九號河野)

第十三條 酒類製造主酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前ニ其ノ數量、時期等ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

第十四條 酒類製造主酒類ノ粕漉ヲ爲シタルトキ其ノ原酒類ノ石數ヲ確證スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十五條 酒滓、酒粕、蒸餾粕ヲ使用シテ製造スル酒類ハ割水其ノ他如何ナル名稱ヲ附スルモ總テ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

第十六條 酒類製造主其ノ製造用ニ供スル醪又ハ酒造税法第八條ノ二ニ依リ檢定シタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ若ハ飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供セムトスルトキハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ(明治三十五年勅令第百二十九號(大正九年勅令第三十)二十九號本條改正)

第十七條 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ廢棄亡失若ハ腐敗シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ

第十八條 酒造税法第十二條ニ依リ造石税ノ免除ヲ請ハントスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ稅務署長ニ申請スヘシ(明治三十二年勅令第百六十二號(大正九年勅令第三十)二十九號本條改正)

第十九條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ稅務署長ハ其事實ヲ調査シ其ノ廢棄若ハ亡失ヲ認ムルトキ又ハ酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタリト認ムルトキハ税金ノ免除處分ヲ爲スヘシ

又ハ酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ヲ以テ焼酎ノ製造用ニ供セムトスルモノハ税金ノ免除處分ヲ爲シ其ノ酒類ハ焼酎ノ原料品ノ取扱ヲ爲スヘシ(明治三十二年勅令第百六十二號(大正九年勅令第三十)二十九號本條改正)

第二十條 酒類製造主ハ酒類製造着手前ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ酒造税法第十三條第一項但書ニ依リ造石數査定ノ都度保證物ヲ提供セムトスル者ハ毎酒造年度製造着手前ニ其ノ旨稅務署長ニ申請スヘシ

保證物ヲ増補スヘキトキハ其ノ事山ノ生シタルトキ直ニ之ヲ提供スヘシ

酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造税法第十四條ノ一方法又ハ數方法ヲ選ミ之ヲ

申請スヘシ(明治三十一年勅令第三百六十二號改正)

第二十一條 保證物ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル(明治四十一年勅令第三十八號改正)

一 金錢

二 國債(大正九年勅令第五百八十二號本號改正)

三 土地

四 火災保險ニ附シタル建物

第二十二條 保證物ノ保證價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外稅務署長ノ定ムル所ニ依ル(明治三十一年勅令第三百六十號改正)

第二十三條 金錢又ハ無記名國債證券ヲ保證物トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ

所轄稅務署ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ保證物トシテ提供スルトキハ擔保ノ登録ヲ受ケ其ノ登録濟通知書ヲ所轄稅務署ニ提出

スヘシ乙種國債登録簿ニ登録シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提

出スヘシ

土地又ハ建物ヲ保證物トシテ提供スルトキハ稅務署ニ於テ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

(明治三十四年勅令大正九年勅令第五百五號改正)

第二十四條 保證物トシテ提供シタル國債ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキ若ハ建物ノ壞倒亡失シタ

ルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造主ハ稅務署長ノ指定期限内ニ更ニ保證物ヲ提供

スヘシ但シ建物ニ對スル保險金ヲ受領シタルトキハ其ノ保險金ヲ保證物トシテ供託スヘシ(明治三十五年勅令第三百五十五號改正)

第二十五條 酒造税法第十三條ノ保證物ヲ提供セザルトキハ收稅官吏ハ製造酒類ニ封緘ヲ附シ之ヲ

讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルヲ停止スルコトヲ得

第二十六條 納稅保證人ハ稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル者ニ限ル(明治三十五年勅令第三百五十三號改正)

第二十七條 稅務署長ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換

セシムルコトヲ得(明治三十五年勅令第三百五十三號改正)

第二十八條 收稅官吏ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第二十九條 稅務署長ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類納稅保證ニ適セサルニ至リタリト

認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得(明治三十五年勅令第三百五十三號改正)

第三十條 酒類製造主ハ稅務署長ニ申出保證物、納稅保證人又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ變換ヲ

求ムルコトヲ得(同上)

第三十一條 酒類製造主稅金ヲ納メザルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ通知シ

其ノ稅金ヲ納メシムヘシ

納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ於テ稅金ヲ完納セザルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納

處分ヲ行フヘシ

酒税 酒造税法施行規則

二八三

前項滞納處分ノ後仍税金ニ不足アルトキハ納税保證人又ハ納税ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ニ對シ滞納處分ヲ行フヘシ(明治二十一年勅令第三百六十二號改正)

**第三十二條** 同一製造場内ニ於テ清酒並濁酒ヲ製造セムトスル者ハ其ノ醸造施設ニ供スル場所ヲ酒類別ニ特定シ稅務署長ノ認可ヲ受クヘシ(明治三十五年勅令第二百五十三號改正)

**第三十三條** 稅務署長容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ其ノ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得(同上)

**第三十四條** 收稅官吏ハ隨時酒類製造場又ハ酒類販賣場ニ就キ酒類、酒造用原料品、器具、器械、容器、帳簿又ハ書類ヲ檢査スヘシ(明治三十四年勅令第四百六十四號改正)

**第三十五條** 收稅官吏ハ捲器械、蒸餾器械ノ使用停止中之ニ封緘ヲ附スヘシ但シ修理其ノ他必要ノ事故アルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

收稅官吏ハ必要ナント認ムルトキハ前項ノ封緘ヲ爲ササルコトヲ得(明治三十八年勅令第三號改正)  
收稅官吏ハ必要ト認ムルトキハ酒粕又ハ原料用酒類ニ封緘其ノ他監督上必要ナル方法ヲ施スコトヲ得(明治三十八年勅令第三號改正)

**第三十六條** 自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器、器具、器械及酒造用原料品ハ收稅官吏ノ承認ヲ受クニシテラサレハ酒類製造中ハ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

**第三十七條** 收稅官吏カ必要ト認メテ酒造用原料品ヲ指定シ其ノ使用前檢査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ承認ヲ受クヘシ(明治三十八年勅令第三號改正)

**第三十八條** 酒類製造主ハ製造方法ノ異ナル毎ニ並ニ仕込毎ニ酒母及醪ニ記號ヲ附シテ之ヲ區分シ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ彼此混淆スルコトヲ得ス

**第三十九條** 左ニ掲グル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ承認ヲ受クヘシ(明治三十八年勅令第三號改正)

- 一 熟成シタル酒母ヲ醪ニ仕込マムトスルトキ
  - 二 熟成シタル醪ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲サムトスルトキ
  - 三 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ容器ヲ變換セムトスルトキ
  - 四 仕込濟ノ醪ニ水ヲ混和セムトスルトキ
  - 五 原料用酒類ノ用途ヲ變更セムトスルトキ
  - 六 藏出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲サムトスルトキ
  - 七 前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ
- 第四十條** 酒類製造場外ヨリ酒類製造場内ニ酒母、醪又ハ酒類ヲ移入シタルトキハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ
- 第四十一條** 二仕込以上ノ醪ヲ合併シテ清酒ヲ搾揚ケムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ但シ七仕込以上ノ醪ハ之ヲ合併スルコトヲ得ス

**第四十二條** 酒粕ハ其ノ搾揚ケタル酒類ノ造石數査定ノ時之ヲ檢査スヘシ  
酒類製造主ハ前項檢査後ニアラサレハ酒粕ヲ製造場外ニ移出シ又ハ使用シ若ハ他ノ酒粕ト混合ス

ルコトヲ得ス

第四十二條ノ二 酒造税法第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ酒母、醱其ノ他半製品現存スルトキハ稅務署長ハ酒類製造主ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行為ヲ繼續セシムヘシ(明治三十八年勅令第三十八號附加)

第四十三條 酒類製造主ハ酒造用原料品及酒粕ノ受拂、酒母及醱ノ仕込、燒酎又ハ酒精ノ造リ込、酒類ノ藏出、受拂、増減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアル時ハ此ノ限ニアラス

第四十三條ノ二 收稅官吏ハ酒類製造主及販賣主ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス(明治三十八年勅令第三十八號附加)

第四十三條ノ三 酒造税法第三十五條ノ三第一項ニ依リ稅務署長ハ酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ酒造組合ニ對シテハ毎酒造年度開ニ於テ所屬組員ノ製造酒類中造石數ヲ査定シタル酒類ノ査定石數(滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除シタルモノ)十石ニ付一圓ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ノ交付金ヲ交付ス此ノ場合ニ於テ十石未滿ノ端數アルトキハ之ヲ十石トシテ計算ス(大正十五年勅令第三十二號附加)

第四十三條ノ四 前條ノ酒造組合前條第一項ノ命令ニ違反シタルトキハ交付金ノ全部又ハ一部ヲ交付セサルコトヲ得(大正十五年勅令第三十二號附加)

第四十三條ノ五 沖繩縣ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國内ノ他ノ地方へ移出スルハ那覇港ニ由ルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ樺太酒類出港稅法施行規則第二條乃至第四條ヲ準用ス但シ同規定中樺太廳支廳トアルハ稅務署トシ樺太廳長官トアルハ大藏大臣トス(大正十五年勅令第三十二號附加)

附則

第四十四條 酒造税法施行前ニ於テ明治十三年布告第四十號ニ依リ酒造營業ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ尙ホ引續キ酒造税法第二條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ明治二十九年九月三十日迄ニ第三條ノ圖面、目錄ヲ添ヘ其ノ旨稅務署長ニ申請スヘシ(明治三十五年勅令第二百五十三號)

第四十五條 酒造税法第二十六條ニ該當スル者ハ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルコトノ事實ヲ具シ稅務署長ニ免許ヲ申請スヘシ(明治三十五年勅令第二百五十三號)

附則 (大正七年勅令第三十二號)

本令ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前製成シタル清酒又ハ味淋ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル(大正七年勅令第三十二號)

附則 (大正九年勅令第二百二十九號)

本令ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從前ノ規定ニ依リ檢査シタル原料用酒類ノ造石數査定ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (大正九年勅令第五百八十二號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限り本令ノ規定ニ拘ラス仍其



ノ效力ヲ有ス

附則 (大正十一年勅令第四十九號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十五年勅令第三十二號)

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四酒造年度ニ限り第四十三條ノ三ノ改正規定中毎酒造年度トアルハ大正十五年四月一日ヨリ同年九月三十日迄ノ期間トス

### ○沖縄縣及東京府小笠原島伊豆七島ニ於ケル酒

#### 造税ニ關スル法律 (明治四十一年三月二十七日法律第二十四號)

改正 大正九年七月三十一日法律第十七號

第一條 東京府小笠原島伊豆七島ニ於テハ酒造税法第四條ニ依ル造石税ハ當分其ノ三分ノ一トス

(大正九年法律第十七號改正)

第二條 東京府小笠原島伊豆七島ニ於テ製造シタル酒類ハ之ヲ帝國内ノ他ノ地方ニ移出スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應シ酒造税法第四條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ノ罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス  
前項ノ酒類及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

第三條 舊價ニ依ル沖縄縣酒造免許税ハ自今之ヲ徵收セス

第四條 舊價ニ依リ酒造ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ本法施行後引續キ酒類ヲ製造スル者ハ酒造税法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ製造者ニハ當分酒造税法第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

附則

本法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正九年法律第十七號)

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

沖縄縣酒類出港税則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前沖縄縣内ニ於テ製造シタル清酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ沖縄縣外ニ移出スル場合ニ於テハ仍從前ノ例ニ依ル

### ○樺太酒類出港税法 (大正元年八月十二日法律第一號)

第一條 本法ニ於テ酒類ト稱スルハ燒酎、酒精及酒精含有飲料ヲ謂フ

前項ニ於テ燒酎ト稱スルハ酒造税法ニ於ケル燒酎ヲ謂ヒ酒精及酒精含有飲料ト稱スルハ酒精及酒精含有飲料税法ニ於テ同法ヲ適用スルモノヲ謂フ

第二條 樺太ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國内ノ他ノ地方へ移出スルトキハ燒酎ニ付テハ酒造税法、

酒精又ハ酒精含有飲料ニ付テハ酒類及酒精含有飲料稅法ノ造石稅ト同一ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課ス

第三條 酒類ハ命令ヲ以テ指定シタル港ニ由ルニ非サレハ移出スルコトヲ得ス

第四條 酒類ヲ移出セムトスル者出港稅ヲ納付シタルトキハ領收證及船積免狀ヲ交付ス

第五條 船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前其ノ積取石數ヲ收稅官吏ニ届出ツヘシ

第六條 收稅官吏又ハ警察官吏ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ出港船舶ニ臨檢スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

第七條 出港稅ヲ納付セスシテ酒類ヲ船積シ又ハ移出シタル者ハ其ノ出港稅ノ五倍ニ相當スル罰金

ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒類及其ノ容器ハ之ヲ沒收ス既ニ處分シタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第八條 第五條ノ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 收稅官吏又ハ警察官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ

答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十條 酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從

業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第七條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ酒類ノ製造、販賣又ハ移

出ヲ業トスル者ヲ處罰ス

第十一條 前條ノ場合ニ於テ酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者未成年者又ハ禁治産者ナルト

キハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ

限ニ在ラス

第十二條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四

十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正元年勅令第八號ヲ以テ同九年九月一日ヨリ施行)

### ○樺太酒類出港稅法施行規則

(大正元年八月二十日勅令第九號)

改正 大正十一年六月三日勅令第三百二十號

第一條 樺太ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國内ノ他ノ地方ヘ移出スルハ開港ニ由ルヘシ(大正元年勅令第三十二號改正)

第二條 酒類ヲ移出セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ移出港所轄樺太廳支廳ニ提出ス

ヘシ

一 酒類ノ種目、數量及含有純酒精ノ容量

二 容器ノ種類及箇數

三 積載船舶ノ名稱

四 移出先及移出ノ日

五 移出者ノ住所及氏名又ハ名稱

第三條 前條ノ申告アリタルトキハ所轄樺太廳支廳ハ酒類ノ種目、數量及含有純酒精ノ容量ヲ檢定

シ出港税ヲ徴收スヘシ

第四條 船積免狀ハ所轄樺太廳支廳之ヲ交付スヘシ  
船積免狀ノ様式ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ○酒造組合法

(明治三十八年一月一日法律第八號)

第一條 本法ニ於テ酒類製造者ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ製造スル者ヲ謂フ  
第二條 酒類製造者ハ稅務署管内ヲ一區域トシ酒造組合ヲ設クルコトヲ得但シ土地ノ狀況ニ從ヒ特  
別ノ區域ニ依ルコトヲ得

第三條 酒造組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スルヲ以テ目的ト爲ス

第四條 酒造組合ヲ設置セムトスルトキハ其ノ區域内ニ於ケル酒類製造者三分ノ二以上ノ同意ヲ得  
創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

二種以上ノ酒類ノ製造者組合ヲ設置セムトスルトキハ各種毎ニ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコト  
ヲ要ス

第五條 酒造組合設置ノ認可アリタルトキハ其ノ區域内ニ於ケル同種酒類ノ製造者ハ當然其ノ組合  
員ト爲ル

第六條 酒造組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲メ酒造組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

酒造組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 酒造組合及酒造組合聯合會ハ法人トス

第八條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ定款ノ變更ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 政府ハ酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法令若ハ定款ノ規定

ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ、其ノ行爲ヲ制止シ、役員ノ改選ヲ命

シ又ハ組合若ハ聯合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第十一條 本法ニ規定スルモノノ外酒造組合及酒造組合聯合會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第十二條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 酒造稅法ニ依リ設立シタル酒造組合ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ設立シタルモノト看

做ス

前項ノ酒造組合ニシテ其ノ區域内ニ於ケル酒類ノ製造者各種毎ニ三分ノ二以上ヨリ成立スルトキ

ハ同區域内ニ於テ未タ組合ニ加入セサル同種酒類ノ製造者ハ本法施行ノ日ヨリ當然組合員ト爲ル

### ○酒造組合法施行規則

(明治三十八年一月一日勅令第八號)

第一條 酒造組合法ニ依リ酒造組合ヲ設置セムトスルトキハ五名以上ノ同業者ニ於テ其ノ組合ノ區域及酒類ヲ定メ發起ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

第二條 酒造組合設立發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ其ノ組合ノ區域内ニ於ケル同業者ニ左ノ事項ヲ通知シ組合設置ノ同意ヲ求ムヘシ

一 組合ノ名稱、區域及酒類

二 組合員タルヘキ者ノ數但シ各種酒類毎ニ之ヲ區別スヘシ

三 組合事業ノ概目

四 創立費及經費ノ概算

五 同意表示ノ形式及期間

第三條 法定ノ同意者アリタルトキハ發起人ハ定款ヲ作り遲滞ナク創立總會ヲ召集スヘシ

創立總會ヲ召集スルトキハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的、日時及場所ヲ組合員タルヘキ者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

前項ノ通知ニハ定款ヲ添附スヘシ

第四條 定款ハ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス但シ二種以上ノ酒類製造者組合員タルヘキ場合ニ於テハ各種酒類製造者毎ニ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第五條 創立總會ニ於テハ組合員タルヘキ者ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ他ノ組合員タルヘキ者ニ

委任シテ其ノ表決權ヲ行フコトヲ得

第六條 創立總會ヲ終リタルトキハ發起人ハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書類定款及創立總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ組合設置ノ認可申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第七條 創立總會ニ於テハ其ノ議定シタル定款ノ規定ニ從ヒ役員ヲ選舉シ又ハ經費ノ豫算並徴收方法ヲ議定スルコトヲ得

第八條 發起人發起ノ認可アリタル後六箇月以内ニ組合設置ノ認可ヲ申請セサルトキ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ發起ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第九條 酒造組合聯合會ノ創立總會ハ其ノ聯合會ヲ組織セムトスル組合ニ於テ選定シタル委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十條 酒造組合聯合會ノ創立總會ヲ終リタルトキハ酒造組合聯合會設置ノ認可申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ認可申請書ニハ定款ヲ添附スヘシ

第十一條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第十二條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ酒造組合聯合會ノ定款ニハ第十二號及第十三號ノ記載ヲ要セス

一名稱

二區域

- 三 酒類
  - 四 事務所ノ所在地
  - 五 事業
  - 六 役員ノ權限及其ノ選任、解任ニ關スル規定
  - 七 總會召集ノ方法
  - 八 會議ノ方法
  - 九 經費ノ負擔及其ノ徵收方法
  - 十 定款違反者處分ノ方法
  - 十一 定款ノ變更ニ關スル手續
  - 十二 酒類製造者ノ造石稅納付ヲ擔保スル場合ニ於ケル決議方法
  - 十三 酒造稅法施行規則第三十一條第一項ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於ケル處分方法
  - 十四 加入及脫退ニ關スル規定
  - 十五 解散ニ關スル規定
- 定款ニハ前項各號ニ掲ケルモノノ外酒造組合又ハ酒造組合聯合會ニ於テ必要トスル事項ヲ記載スルコトヲ得
- 第十三條 定款ノ變更ヲ議定シタルトキハ認可申請書ニ其ノ變更シタル定款及變更ノ理由書ヲ添付シ地方長官ニ提出スヘシ

第十四條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

組合長又ハ聯合會長 一名

評議員 若干名

前項ノ役員ノ外定款ノ規定ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

組合長ハ組合員中ヨリ、聯合會長ハ聯合會ヲ組織スル酒造組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選舉シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添付スヘシ

第十五條 組合長又ハ聯合會長ハ酒造組合又ハ酒造組合聯合會ヲ代表シ之ヲ統轄ス

組合長又ハ聯合會長故障アルトキハ定款ノ規定ニヨリ他ノ役員之ヲ代理ス

評議員ハ組合長又ハ聯合會長ノ諮詢ニ應ジ又ハ定款ノ規定ニ依リ組合又ハ聯合會ノ事務ノ一部ヲ分掌ス

第十六條 組合長又ハ聯合會長ノ解任アリタルトキ及他ノ役員ノ選任又ハ解任アリタルトキハ酒造

組合又ハ酒造組合聯合會ヨリ其ノ氏名ヲ地方長官及稅務監督局長ニ報告スヘシ

第十七條 組合又ハ組合聯合會ニ於テ定款ノ執行ニ關スル規則ヲ設ケタルトキハ其ノ都度地方長官

及稅務監督局長ニ報告スヘシ

第十八條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ定款ノ規定ニ依リ組合員ノ製品ヲ検査スルコトヲ得

酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ定款ノ規定ニ依リ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

- 第十九條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ經費ノ豫算並徵收方法ハ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 經費ノ決算及業務成績ハ毎年少クトモ一回酒造組合ニ在リテハ組合員ニ、酒造組合聯合會ニ在リテハ其ノ組合ニ公示シ且地方長官及稅務監督局長ニ報告スヘシ
- 第二十條 役員ノ闕ケタル場合ニ於テ補闕選舉ノ手續ヲ行フヘキ者アラサルトキハ地方長官ハ組合員ヲ指定シテ其ノ手續ヲ行ハシム
- 第二十一條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會解散ヲ爲サムトスルトキハ組合員又ハ聯合會ヲ組織スル組合ノ三分ノ二以上ノ同意ニ依リ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二十二條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會解散シタルトキハ組合長又ハ聯合會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ定款ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十三條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者アラサルトキハ地方長官之ヲ選任ス
- 第二十四條 清算人其ノ任ニ適セス又ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ地方長官ハ清算人ヲ改任スルコトヲ得
- 第二十五條 清算結了シタルトキハ其ノ結果ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第二十六條 酒造組合法第十條ノ處分ハ地方長官之ヲ行フ
- 第二十七條 本令中酒造組合又ハ酒造組合聯合會ニ關シ地方長官ニ屬スル事務ニシテ二府縣以上ニ涉ルモノハ大藏大臣之ヲ行フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前酒造組合規則ニ依リ爲シタル酒造組合設置ノ手續ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ定款ニ記載スヘキ事項ニシテ組合契約書ニ記載ナキモノハ之ヲ議定シ本令施行後三箇月以内ニ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

○酒母醪及麴取締法

(明治三十八年一月一日法律第七號)

改正 明治四十一年三月二十七日法律第二十六號

- 第一條 本法ハ酒造稅法ニ依リ酒類ノ製造免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醪ヲ製造スル者、販賣ノ爲ニ麴ヲ製造スル者及麴ヲ請賣スル者ニ之ヲ適用ス
- 第二條 酒母、醪又ハ麴ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ
- 第三條 酒母、醪又ハ麴ノ製造者及麴ノ請賣者ハ帳簿ヲ調製シ酒母、醪又ハ麴ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ
- 第四條 收稅官吏ハ酒母、醪若ハ麴ノ製造場又ハ麴ノ販賣場ニ臨ミ酒母、醪又ハ麴、其ノ原料、製造用容器、器具、器械、建築物若ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得
- 收稅官吏監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得
- 第五條 收稅官吏ハ運搬中ニ在ル酒母、醪又ハ麴ヲ検査シ其ノ出所又ハ到達先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ收稅官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第六條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ廢止スルモ製造場内ニ酒母、醱、麴、製造用容器、器具又ハ器械ノ現存スル間ハ收稅官吏ハ其ノ製造場ニ臨ミ建築物又ハ其ノ現在品ヲ検査シ又ハ之ニ封印ヲ施スコトヲ得

第七條 醱ハ之ヲ讓渡シ、質入シ、飲料トシテ消費シ又ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケスシテ製造場外へ移出スルコトヲ得ス

第八條 酒母ハ政府ノ交付シタル買入認許證ヲ所持スル者ニ讓渡スノ外讓渡シ又ハ質入スルコトヲ得ス

酒母ハ政府ノ交付シタル買入認許證ヲ所持スル者ニ讓渡シタル場合ノ外收稅官吏ノ承認ヲ受ケスシテ製造場外へ移出スルコトヲ得ス

第九條 免許ヲ受ケスシテ酒母、醱若ハ麴ヲ製造シタル者又ハ第七條若ハ第八條ニ違反シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒母、醱又ハ麴及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス(明治十一年法律第二十六號本條改正)

前項ノ酒母、醱ハ濁酒ト看做シ酒造稅法ニ依リ其ノ總石數ニ對シ直ニ造石稅ヲ徵收ス

第十條 酒母、醱又ハ麴ノ検査ヲ免カレ又ハ免カレムトシタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 酒母、醱若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者酒母、醱又ハ麴ノ製造出入ニ關スル帳簿書類ヲ隱匿シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 收稅官吏ノ尋問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、(再犯加重)ノ數罪併發)ノ例ヲ用キス

第十四條 酒母、醱若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 酒母、醱若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第十六條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

第十七條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者ニシテ其ノ製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨政府ニ申告スヘシ

第十八條 第九條又ハ第十條ノ處罰ヲ受ケタル者ニ對シテハ政府ハ酒母、醱又ハ麴ノ製造ノ免許ヲ

取消スコトヲ得

第十八條ノ二 本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒母、醱又ハ麴ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ酒母、醱又ハ麴及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス (明治四十一年法律第二十六條)

附則

第十九條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 本法施行前酒造稅法第二十條ニ依リ酒母又ハ醱製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十一條 本法施行前ヨリ麴ヲ製造シ本法施行後引續キ之ヲ製造セムトスル者ハ本法施行後十五日以内ニ本法ニ依リ免許ヲ受クヘシ

前項ノ期間内ハ従前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

第二十二條 (明治四十一年法律第二十六條)

附則 (明治四十一年法律第二十六條)

本法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ○酒母、醱及麴取締法施行規則 (明治三十八年一月一日勅令第七號)

第一條 酒類ノ製造免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醱ヲ製造セムトスル者及販賣ノ爲ニ麴ヲ製造セムト

スル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒母、醱又ハ麴製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 酒母、醱及麴取締法又ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第三條 酒母、醱又ハ麴ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第四條 所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ酒母、醱又ハ麴製造場ノ圖面又ハ製造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ酒母、醱又ハ麴ノ製造者ハ之ヲ提出スヘシ

前項ニ依リ提出シタル容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第五條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ヲ檢定シ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ檢定前使用スヘカラサルコトヲ命シタルトキハ製造者ハ製造用容



器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 酒母、醱又ハ醱製造者ハ毎年十二月中ニ翌年製造スヘキ見込石數、製造著手ノ時期及製造方法ヲ記載シ所轄稅務署ニ申告スヘシ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ申告スヘシ

酒母、醱又ハ醱ノ製造者其ノ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後更ニ製造セムトスルトキ又ハ前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ

第七條 酒母、醱又ハ醱ノ製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ相續ノ場合ヲ除ク外酒母、醱又ハ醱ノ製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ酒母、醱又ハ醱製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ免許申請書ニハ引繼ヲ爲サムトスル者ノ同意書ヲ添附スヘシ

第八條 酒母、醱又ハ醱ノ製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 酒母、醱又ハ醱ノ製造者其ノ製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ第七條第二項ニ依リ製造業ノ引繼ヲ爲シタルトキ亦同シ

第十條 收稅官吏ハ隨時酒母、醱又ハ醱ノ製造場若ハ醱ノ販賣場ニ臨ミ酒母、醱又ハ醱、其ノ原料、製造用容器、器具、器械、建築物若ハ帳簿書類ヲ検査スヘシ

收稅官吏監督上必要ト認メタル場合ニ於テ製造者ヨリ前項ノ物件ニ封印以外ノ適當ナル方法ヲ施サムコトヲ申出テタルトキハ之ヲ承認スルコトヲ得

第十一條 收稅官吏カ必要ト認メテ酒母、醱、麴又ハ其ノ原料品ヲ指定シ其ノ讓渡、質入、消費又ハ使用前検査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒母、醱又ハ醱ノ製造者ハ其ノ検査ヲ受クヘシ

第十二條 酒母ヲ買入レムトスル者ハ其ノ住所、氏名又ハ名稱、酒母ノ數量、用途及買入先ヲ記シタル書面ヲ所轄稅務署ニ提出シ酒母買入認許證ノ交付ヲ請求スヘシ

第十三條 酒母製造者ハ酒母買入認許證ト引換ニ非サレハ酒母ヲ讓渡スコトヲ得ス酒母製造者ハ前項ノ買入認許證ヲ以テ酒母ノ移出ヲ收稅官吏ニ證明スヘシ

第十四條 酒母ヲ醱ニ混和シタルモノハ酒母ト看做ス

第十五條 酒母、醱又ハ醱製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ  
一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先

二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日  
三 製造シタル酒母、醱又ハ醱ノ數量及其ノ製造ノ日

四 酒母ヲ醱ニ混和シタルトキハ其ノ酒母及醱ノ數量、其ノ混成數量及其ノ混和ノ日  
五 使用又ハ他ニ引渡シタル酒母、醱若ハ醱ノ數量及使用又ハ引渡ノ日、引渡シタルモノノ價額及引渡先

第十六條 醱請賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ  
一 引取リタル醱ノ數量、價額、引取ノ日及引取先

二 販賣シタル醱ノ數量、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十七條 收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタル事項ニ付テハ酒母、醱又ハ麴ノ製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

第十八條 酒母、醱及麴取締法第十六條ノ施行ニ付テハ間接國稅犯則者處分法施行規則ノ規定ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

酒母、醱及麴取締法第二十一條ニ依リ免許ヲ受クヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シ免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第二條ヲ適用セス

○酒精及酒精含有飲料稅法

(明治三十四年三月三十日法律第八號)

改正 明治三十八年一月一日法律第四號

同 四十一年三月十六日法律第十九號

大正 七年三月二十三日法律第七號

同 九年七月三十一日法律第十五號

同 十五年三月二十七日法律第十五號

第一條 酒精及酒精ヲ含有スル飲料ニハ本法ニ依リ造石稅ヲ課ス

第二條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎

ニ一圓八十錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ付四十二圓ノ割合ヲ下ルコ

トヲ得ス(明治四十一年法)(大正七年法)(大正九年法)(大正十五年法)

第三條 本法ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス

第三條ノ二 本法ニ於テ葡萄酒ト稱スルハ葡萄ノ汁液ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ(明治三十八年法)(昭和四年法)

左ニ掲クルモノハ葡萄酒ト看做ス

一 葡萄ノ汁液ニ糖分ヲ補充シテ其ノ百分ノ二十四ニ達スル限度迄精製糖ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ但シ葡萄ノ汁液一石ニ付精製糖二十五斤ヲ超ユルモノハ此ノ限ニ在ラス

二 葡萄ノ汁液又ハ前號ニ依リ精製糖ヲ加ヘタル葡萄ノ汁液ヲ純炭酸石炭ヲ以テ除酸シ醱酵セシメタルモノ

三 葡萄酒又ハ前二號ニ依リ葡萄酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以内ノ酒精ヲ混和シタルモノ

第三條ノ三 本法ニ於テ果實酒ト稱スルハ葡萄ヲ除クノ外果實ノ汁液ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ(明治三十八年法)(昭和四年法)

葡萄ヲ除クノ外果實ノ汁液ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ糖分ヲ補充シ又ハ其ノ酸ヲ稀釋シ醱酵セシメタルモノハ果實酒ト看做ス

第四條 清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒(ビール)及清涼飲料ニハ本法ヲ適用セス(明治三十八年法律第三十八號)

第五條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ(大正十五年法律第十五號)

第五條ノ二 政府ハ其ノ年三月ヨリ翌年二月迄ノ一年度間ノ製造石數酒精ニ在リテハ五十石酒精ヲ含有スル飲料ニ在リテハ十石以上ニ非サレハ製造ノ免許ヲ與ヘス(明治四十二年法律第十九號本條追加)

酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者前項ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル造石税ヲ課ス但シ其ノ製造セザリシ石數ニ對スル造石税ハ一石金四十二圓ノ割合ニ依ル(大正七年法律第三號)(大正九年法律第七號)(大正十五年法律第十五號)

第六條 造石税ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許ヲ取消シタルトキハ即納トス(明治四十二年法律第十九號修正)

前條第二項ニ依ル造石税ハ翌年三月末日迄ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許取消ノ場合ニ於テハ取消後三十日以内トス(明治四十二年法律第十九號修正)

第七條 第二十三條ノ二ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ取消シタル場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ造石税ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ差押フルコトヲ得(明治四十二年法律第十九號修正)

第八條 同一製造場内ニ於テ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルカ爲原料トシテ使用スル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニハ造石税ヲ課セス

前項ノ規定ニ依ラムトスル者ハ其ノ原料用ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニ付製成ノ時石數ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第九條 製造石數ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製成シタル時實測シテ之ヲ査定ス但シ前條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ此ノ限ニ在ラス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料若ハ證據物件ニ就キ製造石數ヲ査定シ造石税ヲ課ス

第十條 第八條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ左ノ場合ニ於テハ其ノ檢定石數ヲ以テ査定石數トシ造石税ヲ課ス

一 他人ニ讓渡サレタルトキ

二 公賣セラレタルトキ

三 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造用外ニ消費セラレタルトキ

第十一條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニシテ災害ニ罹リ亡失シタルトキハ其ノ造石税ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其ノ製造石數査定前ニ於テ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十三條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ其ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十四條 收稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料、其ノ製造、出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條 免許ヲ受ケスシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス但シ罰金ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス(明治四十二年法律第十九號改正)

第十六條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其ノ製造石數ノ査定ヲ免レ又ハ免レムトシタルトキハ其ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十七條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十八條 第十二條ノ禁令ヲ犯シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料若ハ帳簿書類ヲ

隠蔽シタルトキ八十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十二條 本法ヲ犯シタル者ハ刑法ノ〔不諭罪〕及減輕、再犯加重、〔數罪俱發〕ノ例ヲ用キス但シ刑法〔第七十五條第一項〕ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十三條ノ二 第十六條乃至第十八條ニ依リ處罰又ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ酒精若ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得(明治四十一年法律第七號修正)

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第二十四條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ取消サレタル者及其ノ相續人ハ造石稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ(明治四十一年法律第十九號改正)

第二十四條ノ二 葡萄酒及果實酒ニハ第五條、第十三條、第十四條及第十九條乃至第二十三條ノ規定ニ限リ本法ヲ適用ス(明治三十八年法律第四十四條)

免許ヲ受ケスシテ葡萄酒又ハ果實酒ヲ製造シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス(明治四十二年法律第十九條)

第二十四條ノ三 本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ本法ト同一ノ税率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應シ第二條ノ税率ニ從テ算出シタル税額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之レヲ沒收ス

附則

第二十五條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日以前ニ於テ製成シタル酒精ニハ舊税率ヲ適用ス

第二十六條 混成酒税法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ製造シタル混成酒ニハ仍該法ヲ適用ス

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本法施行前ヨリ葡萄酒ヲ製造シ本法施行後引續キ之ヲ製造セムトスル者ハ本法施行後一箇月以内ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ期間内ハ從前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本法施行前酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ニハ明治四十五年二月末日迄ハ第五條ノ二第二項ノ規定ヲ適用セス

附則

非常特別税法中酒精又ハ酒精含有飲料ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附則

本法ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ本法施行前ヨリ引續キ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造セサルモノニ付テハ第二十三條ノ二第一項ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附則

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○酒精及酒精含有飲料税法施行規則(明治三十四年八月二十四日勅令第六十五號)

酒税 酒精及酒精含有飲料税法施行規則

改正 明治三十八年一月一日勅令第 四 號  
同 四十二年三月十六日勅令第三十九號

第一條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所氏名又ハ名稱ヲ記シ免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ(明治三十八年勅令第四號改正)

第一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ與ヘサル(明治三十八年勅令第四號改正)

一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 酒精及酒精含有飲料稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第二條 酒精又ハ酒精含有飲料ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面、製造用容器、器具、器械ノ目錄及酒精又ハ酒精含有飲料製造方法書ヲ調製シ事業着手前所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ種類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ其ノ圖面及目錄ヲ提出スルトコトヲ要セス  
前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更

シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルトコトヲ得  
前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ製造着手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後更ニ製造ニ着手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條 酒精又ハ酒精含有飲料製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外酒精又ハ酒精含有飲料製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造者ハ酒精及酒精含有飲料稅法第五條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ(明治三十八年勅令第四號改正)

第六條ノ二 酒精又ハ酒精含有飲料製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ(同上改正)

第七條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

署ニ提出スヘシ

第七條ノ二 變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ酒精及酒精含有飲料税法第五條ノ二ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシ事由ノ證明ハ年度終了後又ハ免許取消後十日以内ニ之ヲ爲スヘシ(明治三十一年)

第八條 酒精及酒精含有飲料税法第八條第二項ニ依リ檢定ヲ受ケタル酒精又ハ酒精含有飲料ハ製造場内ニ於テ他ノ酒精又ハ酒精含有飲料ト區別シテ設置スヘシ

第九條 酒精又ハ酒精含有飲料ノ原料廢棄、亡失其ノ他原料ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條 酒精及酒精含有飲料税法第十一條ニ依リ造石税ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡失ノ事實アリタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十一條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先
  - 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
  - 三 製造シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量及其ノ製成ノ日
  - 四 他ニ引渡シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先
- 小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號引渡先ノ記載ヲ要セス
- 第十二條 酒精又ハ酒精含有飲料販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、引取ノ日及引取先

二 販賣シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十三條 收稅官吏ハ隨時酒精又ハ酒精含有飲料ノ製造場又ハ販賣場ニ就キ酒精又ハ酒精含有飲料其ノ原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿、書類ヲ檢査スヘシ

第十四條 收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製造用容器、器具、器械又ハ原料ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條 左ニ掲ケル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ(明治三十八年勅令第四號本條改正)

- 一 醱酵液若ハ原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ他ノ容器ニ移替ヘムトスルトキ
- 二 濾過、蒸餾又ハ調合ニ着手セムトスルトキ
- 三 原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ使用セムトスルトキ又ハ其ノ用途ヲ變更セムトスルトキ
- 四 酒精又ハ酒精含有飲料ノ殘滓等ヲ製造場外ニ移出シ又ハ之ヲ使用シ若ハ他ノ殘滓等ト混合セムトスルトキ
- 五 自己ノ所有ト否ト問ハス製造用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ
- 六 製造場外ヨリ製造場内ニ酒精又ハ酒精含有飲料ヲ移入セムトスルトキ
- 七 前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第十六條 酒精及酒精含有飲料税法第二十三條ノニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ半製品現存スルトキハ稅務署長ハ製造者ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ(明治四十二年勅令第三十九號本條施行)

第十七條 收稅官吏ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附則

第十八條 本令施行前酒造税法又ハ混成酒税法ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令第一條第一項及第三條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス

第十九條 本令施行前ヨリ引續キ酒精含有飲料ヲ製造スル者ニハ本令施行ノ際ニ限り第四條第二項ヲ適用セス

附則 (明治三十八年勅令第四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (明治四十二年勅令第三十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ○果實酒ト看做スモノノ取扱方ノ件

(明治三十八年三月十一日大藏省令第十一號)

酒精及酒精含有飲料税法第三條ノ二第二項ニ依リ果實酒ト看做スモノノ左ノ通相定ム

- 一 果實ノ汁液ニ糖分ヲ補充シテ其ノ百分ノ二十ニ達スル限度迄精製糖ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ但シ果實ノ汁液一石ニ付精製糖三十斤ヲ超ユルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 二 果實ノ汁液又ハ前項ニ依リ精製糖ヲ加ヘタル果實ノ汁液ヲ水若ハ純炭酸石灰ヲ以テ酸ヲ調節シ醱酵セシメタルモノ

### ○酒精造石稅徵收猶豫及免除ニ關スル法律

(明治四十三年三月二十五日法律第六號)

第一條 酒精及酒精含有飲料税法ニ依リ納付スヘキ酒精ノ造石稅ハ其ノ稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ三月以内其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

前項ニ依リ造石稅ノ徵收ヲ猶豫セラレタル者猶豫期間内ニ税金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ稅ハ金ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保物ハ之レヲ公賣ニ付シ公賣ノ費用及税金ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

擔保ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 造石稅ノ徵收ヲ猶豫セラレタル酒精ヲ其ノ猶豫期間内ニ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法ノ規定スル所ニ從ヒ工業用ニ使用又ハ供給シタルトキハ其ノ石數ニ相當スル酒精ニ付テハ造石精ヲ免除ス

第三條 前條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ其ノ酒精力造石稅ノ徵收猶豫ヲ受



ケタルモノナルコトヲ證スヘキ書類竝工業用ニ使用又ハ供給シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

**第四條** 詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石税ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタル者ハ其ノ造石税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

**第五條** 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○酒精造石税徴收猶豫及免除ニ關スル法律施行

ニ關スル件

(明治四十三年三月二十九日勅令第八十四號)

(明治四十三年法律第六號施行ニ關スル件)

改正 大正九年十二月二十八日勅令第五百八十九號

**第一條** 明治四十三年法律第六號第一條ニ依リ徴收猶豫ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

一 酒精ノ數量、含有純酒精ノ容量、査定ノ日、製造場、請求者ノ住所、氏名又ハ名稱

二 擔保物ノ種類、數量及價格

三 猶豫ヲ請ハムトスル期間

四 擔保物提供者ノ住所、氏名又ハ名稱

五 前各號ノ外必要ナル事項

**第二條** 擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル(大正九年勅令第五百八十九號本條改正)

金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登録ヲ受ケ其ノ登録濟通知書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ乙種國債登録簿ニ登録シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

**第三條** (大正九年勅令第五百八十九號刪除)

**第四條** 擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ造石税納付済ニ至リタルトキ又ハ造石税免除ノ確定シタルトキハ所轄稅務署ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

**第五條** 明治四十三年法律第六號第三條ノ申請書ニハ其ノ酒精ノ數量、含有純酒精ノ容量、免除スヘキ税額、査定ノ年月日、製造場及請求者ノ住所、氏名又ハ名稱其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

造石税ノ免除ヲ請求セムトスル者ト酒精ヲ工業用ニ使用又ハ供給シタル者ト異リタル場合ニ於テハ免除申請者ハ使用者又ハ供給者ニ其ノ酒精ヲ交付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ

**第六條** 前條ノ申請書ニ添附スヘキ酒精造石税徴收猶豫證明書又ハ酒精使用證明書ノ下付ヲ受ケム

トスル者ハ所轄稅務署ニ申請スヘシ  
工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法施行規則ハ前項ノ酒精使用證明書ヲ下付スル場合ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

(大正九年勅令第五百八十九號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限り本令ノ規定ニ拘ラス仍其效力ヲ有ス

前項ノ有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ造石稅ヲ徵收ス

○酒精、酒類其他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戻

金ニ關スル法律

(明治三十四年三月三十日法律第十號)

改正 明治三十七年四月一日法律第五號

大正 元年八月十二日法律第三號

第一條 命令ノ定ムル所ニ依リ造石稅若ハ出港稅ヲ課セラレタル酒類、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ

麥酒稅ヲ課セラレタル麥酒ヲ外國ニ輸出シタル者ハ造石稅若ハ出港稅又ハ麥酒稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得(明治三十七年法律第五號改正)  
輸出後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 前條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ政府ニ提出スルコトヲ要ス(大正元年法律第三號本條改正)

一 納稅濟證明書(同上本條改正)

二 輸出免狀

三 外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類但シ命令ヲ以テ之ヲ限定スルコトヲ得(明治三十七年法律第五號本條改正)

第三條 納稅濟ニ至ラサル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ヲ輸出シタル者ハ稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ以テ前條納稅濟證明書ニ代フルコトヲ得

附則

第四條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ施行シ同日以後製造シタル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ之ヲ適用ス

第五條 明治二十一年勅令第五十四號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ關シテハ仍該勅令ヲ適用ス

附則

(明治三十七年法律第五號)

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行シ同日以後製成シタル酒類、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒ニ之ヲ適用ス

造石稅又ハ麥酒稅納付済ノ酒類、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒ニシテ本法施行前ニ製成シタルモノヲ外國ニ輸出シタル者ニハ仍舊法ヲ適用ス

### ○明治三十四年法律第十號施行規則

(明治三十四年八月二十四日勅令第六十六號)

改正 明治三十七年四月 一 日勅令第八十七號

同 四十年七月 十 日勅令第二百六十三號

同 四十二年十一月二十四日勅令第三百二十四號

大正 元年八月十九日勅令第十一號

同 九年十二月二十八日勅令第五百八十三號

第一條 酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ付納稅濟證明書又ハ擔保提供證明書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ其ノ種類、數量、含有純酒精ノ容量、査定ノ日、製造場、請求者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條 酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ付稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セムトスル者ハ其ノ種類、數量、含有純酒精ノ容量、査定ノ日、製造場、擔保ノ種類、價格及稅金不納ノ場合ニ於テハ其ノ擔保物ヲ以テ稅金ノ納付ニ充ツヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第三條 擔保ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル(大正九年勅令第五百八十三號改正)

金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅務署ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ稅務署ニ提出スヘシ

乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第三條ノ二 外國ニ輸出スル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ付明治三十四年法律第十號

第一條ニ依リ金額下付ヲ請求セムトスルモノハ登錄噸數二百噸以上ノ汽船ニ積載スヘシ但シ航路

其ノ他ノ事由ニ依リ登錄噸數二百噸以上ノ汽船ヲ用ウル能ハサル地方ニ輸出スル場合ニ於テ豫メ

政府ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス(明治三十七年勅令第三號) (明治四十二年勅令第三號) (明治四十七年勅令第三號) (二十四日勅令第三百)

前項ノ場合ニ於テ船舶力輸出申告書ニ記載シタル寄港地以外ノ內國沿岸ニ寄港シタル時ハ金額ノ

下付ヲ請求スルコト得ス但シ海難其ノ他己ムヲ得サル事故アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス(明治四十年勅令)

(明治三十四年勅令)

第四條 外國ニ輸出スル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ付明治三十四年法律第十號第一

條ニ依リ金額下付ヲ請求セムトスル者ハ其ノ輸出申告書ニ少クトモ其ノ種類、數量、含有純酒精

ノ容量、査定ノ日、製造場及輸出先竝積載スヘキ船舶名及其ノ內國寄港地ヲ記載スヘシ(明治三十七年勅令第八十七號)

第五條 前條ノ申告アリタルトキハ稅關ハ酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ノ種類、數量及

酒稅 明治三十四年法律第十號施行規則

三二五

含有純酒精ノ容量ヲ檢定スヘシ

第六條 第一條、第二條、第四條及第五條ノ場合ニ於テ清酒、濁酒、白酒、味淋、麥酒ニ限り含有純酒精ノ容量ヲ記載シ又ハ檢定スルコトヲ要セス

第六條ノ二 出港稅納稅證明書ノ交付又ハ出港稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ第一條及第四條ニ定メタル査定ノ日及製造場ニ代ヘ納稅ノ日及移出港ヲ記載シ第一條ノ申請書ハ沖繩縣ニ在リテハ移出港ヲ管轄スル稅務署ニ、樺太ニ在リテハ移出港ヲ管轄スル樺太廳支廳ニ提出スヘシ(大正元年勅令第十一號追加)

第六條ノ三 明治三十四年法律第十號第二條ノ申請書ハ之ヲ輸出港稅關ニ提出スヘシ但シ樺太酒類出港稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ之ヲ樺太廳ニ提出スヘシ(同上)

第七條 「韓國」ニ陸揚シタル酒精、酒類又ハ其ノ他ノ酒精ヲ含有スル飲料ニ付明治三十四年法律第十號第一條ニ依リ金額下付ヲ請求スル場合ニ於テ同法第二條第三號ノ添附書類ハ「韓國」稅關ノ輸入免狀又ハ其ノ證明シタルモノニ限ル(明治三十七年勅令第八十七號修正)

附則 (明治三十七年勅令第八十七號)  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (明治四十年勅令第二百六十三號)  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (明治四十年勅令第二百二十四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正元年勅令第十一號)

本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正九年勅令第五百八十三號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限り本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

### ○工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法

(明治三十九年四月二十四日法律第四十六號)

改正 大正元年八月十二日法律第二號

第一條 造石稅又ハ出港稅納付濟ノ酒精ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ命令ヲ以テ定メタル工業ノ用ニ供スル者ハ政府ノ承認ヲ得テ毎同一石以上ノ酒精ヲ使用スルトキニ限り其ノ造石稅又ハ出港稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得(大正元年法律第二號改正)

第二條 造石稅又ハ出港稅納付濟ノ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ命令ヲ以テ定メタル政府ノ工業用ニ供給スル者ハ毎同一石以上ノ供給ヲ爲ストキニ限り其ノ造石稅又ハ出港稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得(同上)

第三條 前二條ノ請求ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ノ使用又ハ供給後一年ヲ經過シタルトキハ

酒稅 工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法

之ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 第一條ノ酒精ニ對シ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ變性ヲ命スルコトヲ得

第五條 第一條ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ申請書ニ造石税又ハ出港税ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付スルコトヲ要ス(大正元年法律第二號改正)

第六條 詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石税又ハ出港税ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求シタル者ハ其ノ造石税又ハ出港税ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第七條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

附則

醫藥用工業用酒精戻税法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行後三箇月迄ニ造石税ノ賦課ヲ受ケタル醫藥用酒精ノ税金下戻ニ關シテハ本法施行後六箇月ヲ限リ醫藥用工業用酒精戻税法ヲ適用ス

○工業用酒精酒類其ノ他ノ酒精含有飲料戻税法

施行規則 (明治三十九年四月二十四日勅令第八十六號)

改正 大正元年八月二十日勅令第十號

同 六年十二月十三日勅令第二百二十九號

同 十一年六月二十八日勅令第三百三十三號

同 十五年五月五日勅令第九十六號

第一條 酒精ヲ左ニ掲クル物品ノ製造ニ使用シタルトキハ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料税戻

法第一條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲スコトヲ得(大正六年勅令第二(大正十一年勅令第三(大正十五年勅令百二十九號改正)百三十三號改正)第九十六號改正)

一 食酢

二 タンニン酸

三 苛性加里

四 クロロフォルム

五 ヨードフォルム

六 エーテル

七 醋酸エーテル

八 脂酸エーテル

九 クロールエチール

酒税 工業用酒精酒類其ノ他ノ酒精含有飲料戻税法施行規則

- 十 プロロムエチール
- 十一 ヨードエチール
- 十二 エチール硫酸鹽類
- 十三 ベンチデン
- 十四 トリチン
- 十五 エチールアニリン
- 十六 パラフェニレンダイアミン(パラミン)
- 十七 アリザリンブリン
- 十八 サルフアブリン
- 十九 アセチールサリチール酸(アスピリン)
- 二十 サリチール酸フェニール(ザロール)
- 二十一 フェナセチン
- 二十二 モノフェニール尿素
- 二十三 硫酸キニーネ
- 二十四 鹽酸キニーネ
- 二十五 エチール炭酸キニーネ(オイヒニン)
- 二十六 炭酸グアヤコール(ゾオタール)

- 二十七 硫酸アトロピン
- 二十八 プロロム樟腦
- 二十九 抱水クロラル
- 三十 プロテイン銀(プロタルゴール)
- 三十一 ヘキサメチレンテトラアミン(ウロトロピン)
- 三十二 サルヴァルサン類
- 三十三 ヴィタミン類
- 三十四 チアスターゼ類
- 三十五 樟腦
- 三十六 龍腦
- 三十七 シトロネロール
- 三十八 ゼラニオール
- 三十九 燃料用變性酒精
- 四十 ヴァニシユ(ニス)
- 四十一 コロデオシ(瓦斯ハントル、官製材料、官製製販若ハ)  
(擬草ノ製造又ハ塗料ニ供スルモノニ限ル)
- 四十二 セリユロイド
- 四十三 火藥

四十四 石鹼

四十五 外國ニ輸出スル香水其ノ他ノ化粧液

四十六 外國ニ輸出スル煙草香料

四十七 外國ニ輸出スル擬眞珠

第二條 酒精酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ政府ノ火藥製造用又ハ煙草醱酵用ニ供給シタル者ハ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法第二條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三條 工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法第一條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲ス爲酒精使用ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ其ノ使用スヘキ數量、使用ノ目的、場所及日時ヲ定メ所轄稅務署ニ申請スヘシ

第四條 前條ノ申請アリタルトキハ當該官吏ハ酒精ノ使用前其ノ數量及含有純酒精ノ容量ヲ檢定シ使用ノ承認ヲ與フヘシ但シ申請ノ場所及日時ニ於テ其ノ目的ニ從ヒ使用セスト認ムルトキハ其ノ承認ヲ取消スコトヲ得

當該官吏ハ前項ニ依リ承認ヲ與ヘタル酒精ヲ使用スル場所ニ就キ酒精、酒精ト混和スヘキ物品、製品、残渣、器具、器械及帳簿書類ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ト認ムル方法ヲ施スコトヲ得當業者前項ノ檢査又ハ處分ヲ拒ムトキハ當該官吏ハ既ニ與ヘタル承認ヲ取消スコトヲ得

第五條 酒精ヲ第一條ノ工業用ニ使用スルニ際シ作業中酒精ノ分離シタルモノアルトキハ稅務署ニ申出テ其ノ數量及含有純酒精ノ容量ノ檢定ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ分離シタル酒精ノ數量ヲ控除シタルモノヲ以テ使用數量トス

第六條 工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法ニ依リ金額ノ下付ヲ請求スル申請書ハ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ樺太酒類出港税ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ之ヲ樺太廳ニ提出スヘシ(大正元年勅令第十號但書追加)

酒精ヲ外國ニ輸出スル香水其ノ他ノ化粧液、煙草香料又ハ擬眞珠ノ製造用ニ供シ金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ前項ノ申請書ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ添付スヘシ(大正六年勅令第二十六號但書追加)

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法第一條ニ依リ樺太酒類出港税ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ第一項ノ申請書ニ酒精ヲ第一條ノ工業用ニ使用シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付スヘシ(大正元年勅令第十號但書追加)

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法第二條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ第一項ノ申請書ニ酒精酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ政府ノ火藥製造用又ハ煙草醱酵用ニ供給シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付スヘシ

第七條 工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 酒精酒類其ノ他酒精含有飲料ノ數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先

- 二 使用シタル酒精ノ數量、使用ノ目的及使用ノ日
  - 三 政府ニ供給シタル酒精酒類其ノ他酒精含有飲料ノ數量及供給ノ日
  - 四 製品アルトキハ其ノ種類、數量及其ノ製造ノ日
  - 五 作業中酒精ノ分離シタルモノアルトキハ其ノ數量及含有純酒精ノ容量
  - 六 残渣アルトキハ其種類、數量及處理ノ顛末(大正十五年勅令第九十六號)
- 第八條 當該官吏ハ第一條ノ工業用ニ酒精ヲ使用スル者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第九條 本令中稅務署トアルハ樺太ニ在リテハ樺太廳支廳トス(大正元年勅令第十號)

附則

本令ハ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十一年勅令三百三十三號)

本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十五年勅令第九十六號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ○臺灣酒精令ニ依ル酒精使用證明ニ關スル規定

ノ件 (大正十一年六月一日勅令第三百五號)

臺灣酒精令第十四條ノ規定ニ依リ酒精ヲ工業用ニ使用シ又ハ供給シ其ノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法施行規則ヲ準用ス

附則

本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年勅令第三百四十五號ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依リ爲シタル證明書交付ノ申請ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

### ○工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法ニ

依リ酒精ノ變性ヲ命スル場合混和スヘキ物品

ノ種類及數量等ニ關スル件 (大正十五年五月五日大藏省令第二十二號)

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法第四條ニ依リ酒精ノ變性ヲ命スル場合混和スヘキ物品ノ種類及數量等左ノ通相定ム

第一條 左ニ掲クル物品ノ製造ニ使用スル酒精ノ變性ニ際シ酒精一石ニ付混和スヘキ物品及其ノ數量ハ左ノ標準ニ據ルヘシ

一 食酢

酸量(醋酸トシテ)「パーセント」以上、酒精分十五「パーセント」以下トナル程度以上ノ種酢又

酒類 工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法ニ依リ酒精ノ變性ヲ命スル場合混和スヘキ物品ノ種類及數量ニ關スル件



工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法ニ依リ酒精ノ變性ヲ命ス  
ル場合混和スヘキ物品ノ種類及數量ニ關スル件

三三六

ハ種酢及水

二 タンニン酸

樟腦油(赤油又ハ白油)六百匁以上

五倍子末三十匁以上

三 クロロフォルム

「クロール石灰」(有效)「クロール」三十「パーセント」以上ヲ含有スルモノ(五十匁以上比重一、四九ノ「クロロフォルム」五百匁以上

四 ヨードフォルム

「アセトン」、「アセトン油」ノ一種又ハ二種ヲ通シテ三貫五百匁以上

「ヨード」及「ヨードフォルム」各三百五十匁以上

五 エーテル

「ペンゾファストスカーレット」及「ローダミン」B(サフラニリン)ヲ等量ニ混和シタル著色

料一「グラム」以上

比重〇、七三以下ノ「エーテル」五百匁以上及比重一、八三以上ノ硫酸五百匁以上又ハ「エーテル」殘渣五匁以上

六 醋酸エーテル

「ペンゾファストスカーレット」及「ローダミン」B(サフラニリン)ヲ等量ニ混和シタル著色

料一「グラム」以上

比重一、八三以上ノ硫酸五百匁以上及「醋酸ナトリウム」又ハ比重一、〇四以上ノ醋酸五百匁以上

七 脂肪酸エーテル

「ペンゾファストスカーレット」及「ローダミン」B(サフラニリン)ヲ等量ニ混和シタル著色

料一「グラム」以上

「アセトン」、「アセトン油」ノ一種又ハ二種ヲ通シテ三貫五百匁以上

八 クロールエチール

「ペンゾファストスカーレット」及「ローダミン」B(サフラニリン)ヲ等量ニ混和シタル著色

料一「グラム」以上

九 プロピムエチール

「ペンゾファストスカーレット」及「ローダミン」B(サフラニリン)ヲ等量ニ混和シタル著色

料一「グラム」以上

酒稅 工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法ニ依リ酒精ノ變性ヲ命ス  
ル場合混和スヘキ物品ノ種類及數量ニ關スル件

三三七

酒税 工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法ニ依リ酒精ノ變性ヲ命スル場合混和スヘキ物品ノ種類及數量ニ關スル件

三三八

比重一、八三以上ノ硫酸五百匁以上及「プローム加里」三貫五百匁以上

比重二、四五以上ノ「プロームエチール」五百匁以上

十 ヨードエチール

「ベンゾファストスカレット」(A)及「ローダミン」(B)サフラニリン(C)ヲ等量ニ混和シタル著色

料一「グラム」以上

「ヨード」三貫五百匁以上及赤燐五百匁以上

比重一、九四以上ノ「ヨードエチール」五百匁以上

十一 エチール硫酸鹽類

「ベンゾファストスカレット」(A)及「ローダミン」(B)サフラニリン(C)ヲ等量ニ混和シタル著色

料一「グラム」以上

比重一、八三以上ノ硫酸十貫匁以上

「エチール硫酸鹽類」五百匁以上

十二 ベンチチン又ハトリチン

「アニリン」五貫匁以上及木精三貫五百匁以上

各製品三百五十匁以上又ハ各其ノ製造殘渣五百匁以上

十三 エチールアニリン

「ベンゾファストスカレット」(A)及「ローダミン」(B)サフラニリン(C)ヲ等量ニ混和シタル著色

料一「グラム」以上

「アニリン」三十五貫匁以上及「鹽酸アニリン」二十貫匁以上

「エチールアニリン」三百五十匁以上

十四 パラフェニレンジアミン(パラミン)

「アニリン」十貫匁以上、木精四貫匁以上及鹽酸三貫五百匁以上

十五 樟腦

「エーテル」「ベンゾール」「石油ベンチン」「クロロフォルム」、二硫化炭素、四鹽化炭素ノ一種

又ハ數種ヲ通シテ三貫五百匁以上

山製樟腦、再製樟腦ノ一種又ハ二種ヲ通シテ一貫匁以上

十六 龍腦

「ベンゾファストスカレット」(A)及「ローダミン」(B)サフラニリン(C)ヲ等量ニ混和シタル著色

料一「グラム」以上

樟腦三貫五百匁以上

十七 シトロネロール又ハゼラニオール

「ベンゾファストスカレット」(A)及「ローダミン」(B)サフラニリン(C)ヲ等量ニ混和シタル著色

料一「グラム」以上

山椒油一貫五百匁以上及「シトロネロール」又ハ「ゼラニオール」三百五十匁以上

酒税

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法ニ依リ酒精ノ變性ヲ命スル場合混和スヘキ物品ノ種類及數量ニ關スル件

三三九

酒税 工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法ニ依リ酒精ノ變性ヲ命ス  
ル場合混和スヘキ物品ノ種類及數量ニ關スル件

十八 燃料用變性酒精

「エーテル」、「ベンゾール」ノ一種又ハ二種ヲ通シテ十貫匁以上  
「ピリヂン鹽基」二貫匁以上又ハ「アセトン油」二貫五百匁以上及「アムモニア水」(日本藥局方)三  
百八十匁以上

十九 ヴァニッシュ(ニス)

樟腦、樟腦油(赤油又ハ白油)ノ一種又ハ二種ヲ通シテ五百匁以上  
樹脂又ハ樹脂類似品八貫四百匁以上

二十 瓦斯マントル用コロヂオン

「アセトン」、「アセトン油」ノ一種又ハ二種ヲ通シテ三貫五百匁以上  
「エーテル」三十五貫匁以上及硝化綿二貫匁以上

二十一 寫真材料用又ハ寫真製版用コロヂオン

「エーテル」三十五貫匁以上及硝化綿二貫匁以上  
尙「コロヂオン」十貫匁ニ付「臭化カドミウム」及「臭化アムモニウム」各二十匁以上又ハ硝酸銀四  
百五十匁以上及「臭化リヂウム」若ハ「鹽化リヂウム」十二匁以上ヲ混和スヘシ

二十二 擬革用又ハ塗料用コロヂオン

「エーテル」、「アセトン」、「アセトン油」、「テレピン油」、「ベンゾール」ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三  
貫五百匁以上

飴狀ヲ呈スル程度ノ硝化綿

二十三 セリユロイド

「エーテル」、「アセトン」、「アセトン油」、「テレピン油」、「ベンゾール」ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三  
貫五百匁以上  
餅狀ヲ呈スル程度ノ硝化綿及樟腦又ハ餅狀ヲ呈スル程度ノ「セリユロイド」

二十四 火藥

(イ) 雷汞  
再餾凝縮液一貫六百匁以上

(ロ) 爆粉  
凝縮液二貫匁以上及再餾酒精四貫二百匁以上

(凝縮液トハ雷汞化作業中蒸發スル瓦斯ヲ凝縮瓶ニ導キ凝縮セシメタルモノニシテ水分、酒  
精、「アルデヒド」及「硝酸エーテル」等ヲ含有スル液ヲ謂ヒ、再餾凝縮液トハ凝縮液ヲ石灰  
ニテ中和シ蒸餾シタルモノニシテ酒精、「アルデヒド」及「硝酸エーテル」等ヲ含有スル液ヲ  
謂ヒ、再餾酒精トハ爆粉製造ノ際使用シタル稀薄酒精ヲ再餾シタルモノニシテ七十三乃至八  
十七「パーセント」ノ酒精分ヲ含有スル液ヲ謂フ)

二十五 石鹼

苛性曹達百二十匁以上ノ水溶液

酒税 工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法ニ依リ酒精ノ變性ヲ命ス  
ル場合混和スヘキ物品ノ種類及數量ニ關スル件

酒税 工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法ニ依リ酒精ノ變性ヲ命スル場合混和スヘキ物品ノ種類及數量ニ關スル件

三四二

樟腦油(赤油又ハ白油)若ハ芳香性揮發油二百五十匁以上又ハ香料及石鹼ノ適量

二十六 外國ニ輸出スル香水其ノ他ノ化粧液又ハ煙草香料  
使用スヘキ原料品ノ全都

二十七 外國ニ輸出スル擬眞珠

樟腦、樟腦油(赤油又ハ白油)五百匁以上及「アセトン」、「アセトン油」、「テレピン油」、「ベンゾール」ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三貫五百匁以上

二十八 苛性加里、アリザリン、ブリン、サルファー、アセチルサリチール酸(アスピリン)、サリチール酸フェニール(ザロール)、フェナセチン、モノフェニール尿素、硫酸キニネ、鹽酸キニネ、エチル炭酸キニネ(オイヒニン)、炭酸グアヤコール(ゾオタール)、硫酸アトロピン、プロム樟腦、抱水クロラール、プロテイン銀(プロタルゴール)、ヘキサメチレンテトラアミン(ウロトロピン)サルヴァルサン類、ヰイタミン類、チアスターゼ類

木精、「ベンゾール」、「石油ベンチン」ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三貫五百匁以上各製品三百五十匁以上又ハ各其ノ製造殘渣五百匁以上

第二條 前條ノ規定ニ據リ難キ場合ニ於テ所轄稅務署ノ承認ヲ得タルトキハ其ノ變性方法ノ一部又ハ全部ヲ變更スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
大正六年大藏省令第三十六號ハ之ヲ廢止ス

### ○南洋群島ニ於テ出港稅ヲ課セラレタル酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ノ出港稅ノ免除等ニ關スル件

(大正十五年九月二十日勅令第三百十號)

第一條 南洋群島ニ於テ出港稅ヲ課セラレ其ノ徵收ヲ猶豫セラレタル酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ其ノ猶豫期間内ニ内地ヨリ外國ニ輸出シタルトキ又ハ内地ニ於テ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法ニ規定スル例ニ從ヒ工業用ニ使用シ若ハ供給シタルトキハ其ノ石數ニ付テハ請求ニ依リ出港稅ヲ免除ス

第二條 南洋群島ニ於テ出港稅ヲ課セラレ其ノ納付済ナル酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ内地ヨリ外國ニ輸出シ又ハ内地ニ於テ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法ノ規定スル例ニ從ヒ工業用ニ使用シ若ハ供給シタルトキハ其ノ石數ニ付テハ請求ニ依リ其ノ出港稅額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第三條 前二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムスル者ハ輸出後又ハ工業用ニ使用若ハ供給ノ後一年内ニ各場合ニ應シ左ノ書類ヲ添附シ移出港ヲ管轄スル南洋廳支廳ニ請求書ヲ提出スヘシ

酒税 南洋群島ニ於テ出港稅ヲ課セラレタル酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ノ出港稅ノ免除ニ關スル件

三四三